

昭和五十七年三月十五日発行

創立四十周年記念特集

会報

第十四号

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

歴代の会長

昭和16年12月16日 本会発足

第一代会長 竹内 守之輔氏



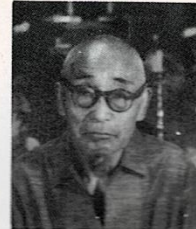
第二代 柴内会長



第三代 吉家会長



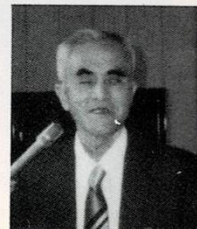
第四代 藤井会長



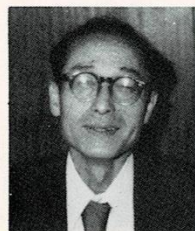
第五代 石川(円)会長



第六代 山本会長



第七代 菅野会長



第八代 石川現理事長

注 竹内初代会長
消息不明のため掲載
出来ませんでした。

記念式典



開会の辞を述べる 浜川副理事長



挨拶する 石川理事長



「40年の歩み」を講演する 菅野顧問



晴れの表彰に輝やく会員諸氏

昭和五十六年五月一日午後一時より

盛岡市（八幡宮境内）さくら会館で挙行

創立 40 周年

表彰状授与



特別表彰を受ける 菅野顧問



特別表彰を受ける 畠山顧問



感謝状を受ける 菅野顧問夫人（代理の鞠子恵子さん）



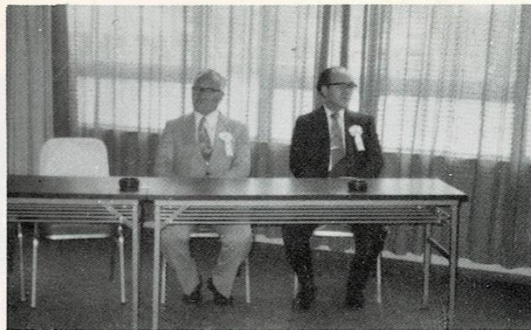
一般表彰者を代表して表彰を受ける 細川一老氏

来



祝詞を述べられる 中館県環境保健部長

賓



(左) 大堂盲協理事長 (右) 三浦県鍼灸師会長

祝



祝宴会場で挨拶する 石川理事長

宴



祝 宴 (さくら会館二階大広間)

会 報 第十四号 目 次 (表紙の「会報」の題字は石川理事長・筆)

写真 歴代の会長 その他		1
あいさつ	理事長 石川 文治	5
役員名簿		6
昭和五十七年二月一日現在の各師会の会員数		7
岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 昭和五十六年度日誌		7
創立四〇周年記念祝賀式典実行委員会名簿		8
岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 創立四〇周年記念式典(誌上再現)		8
1 開会の辞	実行委員長 副理事長 渋川 澄意	9
2 理事長挨拶	理事長 石川 文治	9
3 特別表彰 感謝状 一般表彰について	実行委員長 副理事長 渋川 澄意	11
4 表彰状授与		11
5 祝電披露		13
6 祝辞(1) 岩手県環境保健部長	中舘 先発郎殿	13
祝辞(2) 社会福祉法人岩手県盲人福祉協会理事長	大堂 他人殿	15
祝辞(3) 日本鍼灸師会 岩手県師会会長	三浦 一良殿	16
7 謝辞(表彰受賞者代表による)		18
8 講演「四〇周年のあゆみ」	第七代会長 菅野 長治	19
9 閉式の辞	副理事長 越本 政男	25
本会設立当時の要覧		27
岩手県鍼灸師会創立四〇周年に思う	第六代会長 山本 近	28
故 瀬川勝次氏を偲んで	第七代会長 菅野 長治	30
「レポート」日東医学会広島大会に出席して	副理事長 越本 政男	31
「寸評」ちょっと一言	気仙師会 佐々木 吉男	33
「随筆」昭和十六年(一九四一)とは	副理事長 越本 政男	34
「随筆」創立四〇周年思うがままに	北上和賀師会 高橋 久	37
「随筆」五年目の治療室	胆江師会 千田 節雄	39
「随筆」開業を振り返って	気仙師会 鈴木 源十郎	41
短歌	花巻師会 千葉 米蔵	42
俳句	花巻師会 千葉 米蔵	42
短歌	北上和賀師会 藤田 誠一	44
師会だより		45
盛岡	総務部 内田 幸男	45
花巻	師会長 多田 兼雄	46
北上和賀	師会長 南川 忠	46
会員の皆様へ	北上和賀師会 八重樫昭則	47
胆江	師会長 菊地 安夫	48
一関	師会長 北峰 忠志	48
気仙	師会長 鈴木源十郎	51
釜石	佐々木 至	51
県北	滝沢 省蔵	53
事業部だより		55
編集後記		55

あいさつ

理事長 石川 文治

会員の皆様には益々の健康で三療業務におはげみの事とお慶び申し上げます。

昨年は多忙乍ら特筆すべき年でありました。その一つは新年早々の一月二十一日に全鍼師会が待望の社団法人の許可を受けたことでもあります。それについて二月十六日全国師会長会議が衆議員第二会館で行なわれ鯨岡環境庁長官が祝辞で長い間団結して法人化を望む声を知り協力しましたが、会を創ることは易しいが、これを今後どの様に運営して行くかが大事であり一層団結して進んで下さいとお話を頂きました。又この会議で再編成協議会を地方にも二月末日迄に結成して報告する様あり、二月二十二日に県鍼灸師会と県鍼灸師会、県盲協など三つの会と合同会議を開き各会より五名の委員を選出岩手県鍼灸マッサージ地方再編成協議会を結成、また全鍼師会の総会は四月二十五日・二十六日京都鍼灸マッサージ会館であり法人になった今後の会の運営方法に就いて協議、二十五日夜は船橋京都市長招待の祝宴が催され感激でした。

その二、として五月十日には五十六年度総会と本会創立四十周年式典を中館環境保健部長の来賓のもと、さくら会館で盛大に挙行されました。

昭和十六年の年にはじまった本会が、四十年を閲（けみ）し法人として活躍していることは先輩諸氏の御努力の賜と会員皆様一人一人の御力と深く感謝申し上げます。

東鍼連総会は七月五日飯坂温泉ホテル吾妻で一六〇名出席全鍼師会より伊藤武雄副会長がお出になり手技療法と問題点についてお話を頂き、尚五十七年度総会は六月十三日山形県の蔵王温泉で開催されることになりました。

再編協に関する東北、北海道三団体合同会議が十月十日青森市であり、関野全鍼師会長、木下日鍼会長、村谷日盲連会長が出席され説明されました。石川、渋川副理事長、下佐総務が参加しました。

十二月十四日県鍼灸師会、県鍼灸師会、県盲協三者の再編協議会がもたれ県鍼灸師会は日マ会には参加しない。個人としては日マ会入会希望者は県盲協を窓口として入会すること、岩手の再編協は三者の話し合いの場として残しておくことを決定しました。

- 5 -

鍼灸按摩マッサージ地方審議会が五十七年十二月県庁であり本年度鍼灸按摩マッサージ試験実施の答申があった。試験委員は三沢五郎氏と猪ノ口富蔵氏にお願いしました。

以上報告を兼ね御あいさつと致します。

社団法人 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 役員名簿

昭和五十六年五月一〇日改選

顧問	衆議院議員	鈴木 善幸
顧問	第七代会長	菅野 長治
顧問	地方審議委員	畠山 忠司
理事長	地方審議委員	
	保険部長 胆江師会	石川 文治
副理事長	会計部長 盛岡師会長	渋川 澄意
副理事長	業部部長 釜石師会長	越本 政男
常務理事	総務部長 盛岡師会	下佐 征昭
常務理事	鍼灸マ試験委員 盛岡	三沢 五郎

常務理事	鍼灸マ試験委員	盛岡	猪ノ口	富蔵
常務理事		盛岡	中村	哲夫
常務理事		花巻師会長	多田	兼雄
常務理事		胆江師会長	菊地	安夫
監事		花巻師会	鞠子	栄
監事		宮古師会	野沢	孝一
理事		北上・和賀師会長	南川	忠
理事		一関師会長	北峰	忠志
理事		東磐師会長	熊谷	勝
理事		気仙師会長	鈴木	源十郎
理事		遠野師会長	長山	京一
理事		宮古師会長	中村	強真

- 6 -

理事		久慈師会長	大崎	慶作
理事		県北師会長	加藤	敏勝

昭和五七年二月一日現在の会員数

(各師会の会員数) 合計一九六名

師会名	会員数
盛岡	五四名
花巻	二〇名
北上・和賀	一五名
胆江	二八名
一関	一四名
東磐	四名
気仙	九名
遠野	三名
釜石	一二名
宮古	二〇名
久慈	五名
県北	一三名

(社) 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 昭和五六年度 日誌

総務部

- 五・一〇 昭和五六年度定期総会並びに創立四〇周年記念式典を盛岡市さくら会館に於いて開催
- 五・一五 知事の所管に属する公益法人としての現況報告書を知事宛提出
- 七・五 昭和五六年度東鍼連総会福島大会が飯坂温泉「ホテル吾妻」に於いて午後一時より開催され石川理事長、渋川、越本両副理事長及び、他総勢二十三名出席
- 八・九 昭和五六年度第一回常務理事会を盛岡市さくら会館に於いて午前十一時開催、次回総会

日マ会等について協議する

- 一〇・一〇 地方組織再編にかかる三団体合同会議東北北海道地区会議を青森市中央1丁目「地方教員共済会館八甲荘」に於いて午後一時より開催され、石川理事長、渋川副理事長、下佐常務

- 7 -

理事が出席

- 一〇・二四～二五 盛岡市若園町「盛岡市総合福祉センターに於いて盲協との共催による学術講習会を開催、講師 鈴木達司先生 テーマは鍼灸マッサージの臨床その他
- 一一・一四 日マ会について盲協との合同会議を盲人ホームに於いて午後一時より開催する
- 一一・二二 東鍼連師会会長会議を午後一時より仙台市「ホテルこだま」に於いて開催、石川理事長出席
- 一二・一三 岩手県業界再編成協議会を午後三時よりさくら会館に於いて開催

五七年

- 一・九 第二回常務理事会を午後一時より花巻市大沢温泉に於いて開催、57年度総会、日マ会等を協議する

本会創立四十周年 祝賀記念式典実行委員会

去る五六年一月十日開催の常務理事会で実行委員会を結成し、渋川副理事長を委員長に、式典開催の諸準備を行なった。委員は次の通りです。

実行委員長 渋川 澄意
委員 下佐 征昭
中村 哲夫
猪ノ口富蔵
三沢 五郎

(社) 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 創立四〇周年記念祝賀式典

昭和五六年五月一〇日（日曜日）PM 一時

盛岡市八幡宮境内・さくら会館一階大ホールに於いて挙行された。出席者七〇名。下佐常務理事の司会により定刻に開会。来賓四名

来賓者御芳名

岩手県環境保健部長 中舘 先発郎 殿
社会福祉法人・岩手県盲人福祉協会理事長 大堂 他人 殿

- 8 -

日本鍼灸師会・岩手県師会会長 三浦 一良 殿
岩手県立盲学校校長 野崎 広 殿（御欠席）

開会の辞

創立四〇周年記念祝賀式典実行委員長

副理事長 渋川 澄意

昭和十六年に岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会が誕生いたしましたから今年で、ちょうど創立四〇周年を迎えることになりました。

この間、第二次世界大戦あるいは敗戦、そして現在の様な日本の繁栄を見て、此の四〇年の歩みは戦中・戦後の日本の歩みを其の儘歩んで来た本会でございます。幸い歴代の会長以下各理事の方々の御活躍によって、昭和五三年に社団法人の認可を得るなど、非常に本会としても其の進展は躍如たるものがございます。

これを思うに就きましても本日の四〇周年の記念式典まことに喜ばしく存じます。

只今から四〇周年の記念式典を挙行いたす訳でございますが、思いを新たにして、そして又明日からの本会発展の為に御活躍あらん事を祈ります。失礼します。

このあと物故会員の冥福を祈るため一分間の黙禱を全員起立して行なう。

理事長挨拶

理事長 石川 文治

本日は本会の創立四〇周年を迎えるにあたり、県環境保健部長殿を始め諸先生の御来席を頂いただき斯くも盛大に挙行されますことを深く感謝申し上げます。

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会は昭和一六年一月一六日、時の県衛生課長、竹内守之輔氏を会長に頂き岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会として発足し、戦中戦後ともに休むことなく活躍を続けて参りました。今後一層の公益事業の推進と会の充実強化を諮る可く、昭和五三年八月二八日付けで社団法人の認可を頂き現在に至って居ります。

複雑多岐に亘る現状の中で、私達は所期の目的達成のために一層努力邁進する覚悟でございますが、ご来賓の皆様方のご庇護ご鞭撻を頂きたく存じます。今後共よろしくお願い致します。これを持ちまして御挨拶と致します。有難うございます。

- 9 -

理事長挨拶のあと、渋川実行委員長より、来賓の諸先生や会員に、特別表彰・感謝状・一般表彰の選考経緯が説明され、特に特別表彰を受賞される菅野・畠山顧問の功労を称えると共に、感謝状を贈呈する菅野顧問夫人に対して、降って一会員として感謝の言葉が述べられた。

特別表彰・菅野長治先生（本会顧問）

先生は昭和一六年本会の設立を企図されて、志しを同じくする人々と相携えて本会の創設を果たされた、いわば本会唯一の創立者でございます。

現存する唯一の創立者とも言ってもいいと思います。爾来、本会の色々な危機を乗り越え、そして或いは業権の擁護拡大を諮り、マッカーサー施風のおきた時は国会前で色々陳情に苦心されるやら、亦戦後の按摩鍼灸師の素質向上にあたっては色々講習会を企画されたり、亦講師を勤める等、本会の発展は、もとより業権の擁護拡大に全力を傾けて来られた方でございます。

勿論、本会の役員を長年に亘り歴任されまして、昭和四九年会長を退任されましたあとも、恒に我々の顧問として、私たちの育成の為に何時も御指導を頂き、この機会に改めて先生の御功績を思い直し、今日は特別の感謝を捧げたいと思います。（満場拍手）

畠山忠司先生（本会顧問）

それから畠山忠司先生でございますが、やはり昭和一六年、菅野先生方と共に本会の創立を計られまして立派な運営推進を諮って参られました。

先程お聞きするところによりますと…「自分は本会創立以来三七年間に亘って、あらゆる会議の議事録を執り続けました」と言って居られました。その通り表面には出ないが、蔭の力として私達の育くみに尽された功績は非常に大なるものがございます。

本日は特別表彰状を贈りまして、先生の永年の「ご苦心」をねぎらい度いと思います。(満場拍手)

菅野長治先生夫人・ケサノさん

それから感謝状を、お贈りする菅野ケサノさんでございますが、皆様ご存知の通り、この方は菅野長治先生の奥様でいらっしゃいます。

- 10 -

本会創立以来、菅野先生をたすけて、杖となり眼となって東京は勿論、大阪、九州に至る迄、オシドリの様に常に菅野先生を、お導きになられた事は、内助の功として非常に美しいものがございます。

地元には私共の会合が在る度に何時も、ご自分の家を宿として貸し与えられ、何時に盛岡に着くと言う会員の声を聞き、寒い日も暑い日も駅に出迎え、或いは見送る、亦会員の中に病人が出来たという様なことになりますと。お聞きする処によりますと「自分の出産が間近いものにも拘わらず、ご自分のお体を顧みないで」そして、長いこと病室に付き添われる、その為にご自分が難産されたと言うお話を誰かに聞いた事がございますが、菅野ケサノさんは此の様なお方でございます。言わば私共の蔭の力として私共の支えになり、皆さんの尊敬と感謝を一身に集めて来られた奥様でございます。

今日四〇周年にあたり、奥様に心から感謝の意を表して、感謝状をお贈り申し上げたいと存じます。(満場拍手)

一般表彰について

なお、一般表彰につきましては、先程ちょっと御説明申し上げた通り、本会の運営推進・業界の発展に中央・地方を問わず色々活躍下さった二三名の方々でございます。

この方々、お一人、お一人それぞれ御功績もございますが、申し上げているイトマがございませんので、私どもの感謝の気持ちをお汲みとり頂ければ幸いです。

以上簡単ではございますが、誠に皆様お尽くしになった功績については、此の様な言葉で申し上げる事は本当に短か過ぎますが、一応その本当の概要だけを申し上げます。有難うございます。(満場拍手)

表彰状授与

越本副理事長より、先ず特別表彰の菅野長治先生を呼び、菅野先生・満場拍手の中を登壇、石川理事長より表彰状が記念品を添えて受与される。

表彰状

菅野 長治 殿

- 11 -

あなたは昭和十六年本会を創立され、以来幾多の要職を歴任し、本会の育成強化と業権の擁護拡大を諮り、昭和四十九年会長退任後も顧問として法人化を実現する等その功績は極めて顕著であります
依って本会創立四〇周年を迎えるに当り永くその労を称え表彰します

昭和五六年五月十日

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会
理事長 石川 文治

菅野先生拍手に送られて席に戻る。

続いて畠山忠治先生が呼ばれ、満場拍手の中を登壇、石川理事長より表彰状と記念品を添えて受与される。

表彰状

畠山 忠司 殿

あなたは本会の創設に尽力され爾来幾多の要職を歴任し会の育成と会務の運営に寄与され、法人化を実現する等、その功績は極めて大であります

依って創立四十周年を迎えるにあたり永くその労を称え表彰します

昭和五六年五月十日

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会
理事長 石川 文治

感謝状贈呈

菅野長治先生夫人の菅野ケサノさんに感謝状が贈呈される。菅野夫人欠席により鞠子恵子さんが代理として感謝状と記念品を石川理事長より贈られる。(満場拍手)

感謝状

菅野 ケサノ 殿

あなたは本会の育成にすすんで協力され常に会員の上に思いを馳せ献身的に世話をされる等、会員の尊敬を一身に集めて来られました

依って創立四十周年に当りその労を称え深く感謝の意を表します

昭和五十六年五月十日

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会
理事長 石川 文治

一般表彰状授与

二三名の会員が受賞され、その代表として細川一老氏、石川理事長より光栄ある表彰を授与された。

表彰状

細川 一老 殿

あなたは多年に亘り会員として、本会の育成と会務の推進に尽力され今日の発展に寄与された功績は極めて顕著であります

依って本会創立四十周年を迎えるに当り茲にその労を称え表彰します

昭和五十六年五月十日

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

理事長 石川 文治

◎光荣ある表彰を受けられた会員の氏名（敬称略）

細川一老・渋川澄意・熊谷 勝・加藤敏勝・下佐征昭・沢田清雄・菊地安夫・北峰胤雄・小野寺質・松田惣次郎・菊池孝一・藤原平太郎・小野寺日出子・竹田イト・大野六雄・八重樫昭則・渡辺藤朗・高橋辰夫・小野寺安治・遠田 広・岩間悟郎・箱石龍一・滝沢昭蔵

これにより表彰式終了する。

祝電披露

祝電を越本副理事長が読みあげる。

「岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会ノ創立四十周年ヲ迎エゴ参集ノ皆様ト共ニ心カラオ祝イ申シ上ゲマス。コレマデノ皆様ノゴ努力ニ深ク敬意ヲ表スルト共ニ郷土ノ皆様ノ健康増進ノタメ今後共、大キクゴ前進セラレンコトヲ乞イ願イ併セテ貴会ノ愈々ノゴ発展ヲオ祈リイタシマス」

内閣総理大臣 鈴木 善幸 殿（満場拍手）

「岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会、創立四十周年記念祝賀式典ノ御盛会ヲ御祝イ申シ上ゲマストトモニ市民ノ健康維持ノタメニモ今後一層ノゴ発展ヲオ祈リ申シ上ゲマス」

盛岡市長 太田 大三 殿（満場拍手）

来賓祝辞

◎司会者より丁重に来賓の方々へ御祝辞を頂きたい旨お願いの言葉が述べられ、中館県環境保健部長・大堂県盲協理事長・三浦岩手師会長より暖かい御祝辞が述べられる。

祝 辞

岩手県環境保健部長 中館 先発郎 殿

（満場拍手）県鍼灸按摩マッサージ指圧師会創立四十周年記念、誠にお目出とうございます。

私は四十年と言う様な事を考えた場合ですね、スグ昭和十六年、それは戦争が始まった年、えー第二次世界大戦が始まった年だな…ということをおもった訳でございます。えーそれで昭和十六年から今迄の間、個人の生き方にしても非常に波風の多い四〇年だった訳でございます。まして医業類似団体が此の四十年間・個人以上の苦勞をしながら運営を綴って来たんだア…ということをおもって見ます時、本当に

「ご苦勞さん」こう申し上げたい訳でございます。

それから今日、菅野さん、畠山さん以下二十数名の方々がお会の運営に努力し非常に大きな功績をもたらしたという様な事でご表彰なされた訳でございますが誰方にとっても自分達が生きる其のモノ、それと会の運営、而も 非常に体のご不自由な方々の多い団体を茲まで引張っ て来たという事は大変なご苦勞だったと、いう様な事を考えて、皆さん方に敬意と、それからそれに伴って御祝いの言葉を差上げ

度い。此の様に思う訳でございます。

それで、最近の医療と言う様なものを考えて見ます場合、私達の平的寿命というモノが延長されました。それと共に疾病の種類というか、その種類というのも成人病であるとか或いは慢性疾患とか言う様なものに片寄って参って来た訳でございます。

それと共に西洋医学の万能という様な考え方、これが矢張り段々と変って参りました。

それから患者自体としても、医療を受ける好みといい希望というものも大分変って参りました。従が
いまして西洋医学万能の急激な効果、或いは劇的な効果というようなものを望む人も在る反面、穏やかな持続的な効果というものを望んで、又それを良しとする人達も増えて来て、色々医療に対する需要というものが巾広くなっている現状でございます。

特に将来の高齢化社会を迎えました場合におきまして、私達は相当の年令に達する迄、社会的に活躍してゆかねばならない時代が来る訳でございます。特に疾病の痕のリハビリテーションといいま
すか、社会復帰というのが大切な一つの医療の一分野になる訳でございます。その方面におきまして皆
様方は巾広い働きが出来る、また社会的な福祉が出来るようなことは一面、皆様方の生甲斐でもござい
ますし、亦私達の希望でも有る訳でもございます。このような時期に来まして四十周年記念式典が行な
われ、亦この一つを踏み台と致しまして五十年、六十年と続くような将来の希望を持ちまして、皆様方
が此の様な会をなさったという事に対して本当に慶びを申し上げたい、此の様に思う訳でございます。

本日表彰なされた会の先達（せんだつ）の方々は、これからもお元気で、そして後輩を引き立てて、
会の運営を盛り上げてゆくという様な事を講じられる反面、また此の会が益々隆昌に向かいまして他の

- 14 -

医療に係る団体と大局団結されまして、本県の保健衛生の向上に役立って頂ければ非常に幸いだ
と存ずる次第でございます。

知事が今日、所用がございまして出席できませんので代りまして御祝いの御挨拶をいたしました次第で
ございます。（満場拍手）

進行係 … 有難うございました。

祝 辞

社会福祉法人 岩手県盲人福祉協会 理事長 大堂 他人 殿

意義ある四十周年記念式典に、お招き頂きまして本当に嬉しく思うと同時に感謝申し上げます。

今お話しが有りました様に医業も時代と共に変遷して居りますし私（わたくし）盲協という事で、福
祉に就いても時代と共に変遷しているという実感を持って居ります。

今や医学の中で「三療」特に鍼というのが、西洋医学をやっているお医者さんもドンドン取り入れら
れて居りますし、亦聞く処によりますと西洋でも鍼に就いての関心が非常に高まっているということ
を伺ったり或いはレポートを見たりして居ります。

一方、福祉に就いても今迄は施設に入って…、立派な施設を造って、其処に入ることが福祉であるか
の如き…、これは日本だけではなくて世界中の考え方のものでございましたけれども、ここ何年か前か
ら矢張り福祉と言うものは家庭に於いてなされるものが人間の本来の姿である。在宅福祉であるとい
う事で福祉も亦、非常に大きく変ったと言ってよいんじゃないかと此の様に思います。

この様にして四十周年と言いますと…、戦後三十六年と、こう言いますが、あの難かしい戦争、戦後
の処理を通してツキ抜けて此の様に発展した事は茲にお集まりの方々の先見の明と申しますか、或いは

有る意味では非常に努力された、あの占領政策に添わないで頑張った、そういう事が矢張り吾々考えてみなければならないのではないかという様な感じが致します。昔から福祉には職業をおいて福祉はないと、これは一般の障害者の福祉の場合に何処でも言われる言葉でございます。パンを与えるだけでは福祉ではない、働けるだけ働くところに吾々の福祉であり生甲斐があると…、私はその通りだと思ふ訳でございます。

- 15 -

従って今、皆さん、よく書面で見ておられる様に労働省は「雇用促進法」が改正された、そして大きな会社で雇わない所、いわゆる該当する会社で雇わない所には、月三万円の？ 私はペナルティと、こう言ったら、厚生省や労働省の方がペナルティではない協力する為に三万円出すんだ（苦笑されながら）こういう話しですが、いずれ雇わない人は月一人に就いて三万円をパーセンテージの中で出すというのが労働省、日本の行政の「雇用促進法」でございます。

処が先年、私が労働省に行って担当者から、どの様に「雇用促進法」が改正されたのかと、お聞きしたら盲人の場合…、特に盲人の場合殆んど計数に載るような数字が出て居りません。これは、私は当然だと思ひます。吾々が職場を作らない限り雇用促進法が幾ら改正されても、たいしたものではないという様に感ずる訳でございます。如何か。そうした意味で、吾々の福祉の為に日本古来の三療発展のためにも今後も宣敷く御精進して頂き度いと思ひます。

視覚の障害を持っている方も何も出来る、彼にも出来るというけれども、日本の統計を見ますと三療ほど、いい職業は無いと、此のように数字的にも或いは考え方に於いても出て居りますし、私も其の通りだと思ひます。

今後こうした日本の医療、そして視覚を欠く人の職業、いろんな眼から見て三療を益々伸ばしてゆく必要があろうと思ひます。

今日永年の間お尽くし下さった方々の表彰を心からお祝い申し上げますと同時に、今後のご発展をお祈りして、簡単ではございますけれども、措辞を申し上げましてお祝いの言葉と致します。どうも失礼いたしました。（満場拍手）

進行係 … 有難うございました。

祝 辞

社団法人 岩手県鍼灸師会 会長 三浦 一良 殿

只今ご紹介を頂きました三浦でございます。鍼灸師会と申しますと、お受けして祝辞を申し上げなきゃあならないこととなりますが、皆様ご承知のように岩手県保険鍼灸マッサージ師会と言うものが創られて居ります。

それで其の立場から見ますと、皆様は私と同じ会員であるような気がいたしまして…、祝辞を差上げるという事は大変こう…、何となく僭越のような気がしないでもない訳でもございます。この点に就き

- 16 -

ましてはご諒承を頂いた上で申し上げたいと斯様に思う次第でございます。

申し上げる迄もございません、私共は此の四十周年記念を非常に心から、お祝いを申し上げますが、四十周年以前にも吾々の同志なり団体が有った様に記憶いたして居ります。そして吾々の仕事、即ち東洋

医学は申上げる迄もございません、欽明天皇の時代から既に千数百年に及んで国民の健康保全のために心血を注いで努力して参った訳でございます。

そのうち明治の初頭、蘭学を始めとする西洋医学が入って参りましたために、吾々の仕事が段々投擲（とうてき）に影を薄くし、仕事がしにくくなった訳でございます。

現状は保険の取り扱いかも思うにまかせぬというような誠に残念な状態におかれているというのが現状でございます。然るに東洋医学の中にも良いものが有るんだと先程、部長さんから有難いお言葉を頂戴いたしました。

そういう時代になって来たという事も今迄皆様方が日夜「研鑽」を積まれ辛酸をなめ尽されて本日になられた為であると、その功績の大なることは申し上げる迄もございません。その間には終戦後において、ご承知の様なマッカーサー旋風、ヤメさせてしまえ等といった様なこともありました時にも皆さんのお力が、預かって大なるものがあつたと、私は、そう思っている一人でございます。

茲に其の点につきましても深く感謝申し上げたい、こう思う次第でございます。

四十年と申しますと、ひと口でございますが、矢張り是は昔からよく申しますが十年ひと昔しで四つの昔を加えた。会を創るという事は、或いは困難であつても、出来るかも知れませんが、維持、経営し進歩し発展してゆくということは、亦、永続するということは非常に難かしい、困難なものがあると思ひます。

今後、考えます時に吾々の今後には幾多の難間がある、何としても乗り越えなければならない難関がある、それを乗り越えるのは何か…、やはりお互いの連携であり誠意である、それから努力である、こう思う訳でございます。

- 17 -

私は皆様方の仲間の一人として東洋医学の今後の向上発展のために、私は私の立場から私の一生を賭け、且つ捧げている一人でございます。

私は決して西洋医学を否認するものではございません。その驚く可き向上、発展、開発などは持つて吾々の他山の石とすべきものが多いと思ひますし、なければならぬものである事も、認めるにやぶさかではございません。然しながら東洋医学も亦その性質・特質によって今後共にも発展させてゆかなければならぬものであると…。

私は本当に自分というものを忘れてみても、東洋医学は必要だと、こう申し上げざるを得ないのでございます。

皆様方の今後の一層の団結と、ご努力とを心からお願い申し上げまして、簡単ではございますが…、如何も、その祝辞というものが同志の皆さんに申し上げるんで…エー…面映い感じがいたしますが…、祝辞といたす次第でございます。（満場拍手）

祝辞を頂いた来賓三方に対し司会者より、お礼が述べられた後、被表彰者を代表して顧問の畠山忠司先生より謝辞が述べられた。

謝 辞

本会顧問 畠山 忠司

本日は有難うございました。光栄ある表彰を頂き誠に感謝に堪えません。有難うございました。

本日ここに岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の最も意義ある創立四十周年記念式典が挙行されましたが、私は会の運営に対して、何の貢献もいたしませんでしたが、此の度、心暖まる表彰状を頂きま

して有難うございました。私も歳を取りましたので、今後は会務に携わるのが健康上無理となりました。

岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の今後の向上と発展をお祈りするだけであります。本当に表彰を感謝いたします。本日は有難うございます。(満場拍手)

このあと渋川実行委員長より本日来賓としてご出席される筈だった、野崎広岩手県立盲学校校長殿がお身内にご不幸が出来た為、やむなく御欠席されたのでご本人に代わり伝言を述べる。

岩手県立盲学校校長 野崎広殿よりのメッセージ

本会四十周年記念式典実行委員長 渋川 澄意

それでは本日茲に来賓として参列する予定でございました岩手県立盲学校の野崎校長から伝言がございますので、それを僭越ながら申し述べさせて頂きたいと思ひます。

- 18 -

ご本人、今年の四月から前沢の養護学校の校長から本校へ転勤されまして、初めて皆さんと接触されることを非常に喜んで居られました。

鍼灸マッサージということについては今まで全く経験が無いので、本校卒業生の皆様、或いは会の、そういう有り方などに就いて、大いに勉強もし、皆さんとお話し合いもしたいと言うことで、大変よろこんで居られたんですが、一昨日、義兄に当る方が、お亡くなりになり本日はそれでご葬儀に当るため、如何しても伺い兼ねるため一つ今後、盲学校…大かたの方々が、ご出身になった岩手県立盲学校の校長として、如何か今後いろいろと鍼灸按摩マッサージ発展のために、盲学校も叱咤激励して頂き、そして業会も学校も一丸となって難局を乗り切って行きたいと言う、ご伝言がございましたので、僭越でありますが、渋川がご伝言申し上げます。(満場拍手)

続いて第七代会長で現在本会顧問の菅野長治先生に、本会の「四十年の歩み」と題してご講演をして頂きました。本会創立四十周年記念式典のフィナーレとし、満場に感銘を与えた。

講演

本会・四十年の歩み

第七代会長 顧問 菅野 長治

菅野でございます。(満場拍手)

お話しに入る前に失礼でございますが、ひと言お礼を申し上げさせて頂きたいと思ひます。只今は家内ともども過分のお誉めのお言葉と、本当にお心こもる賞状を頂戴しまして誠に感謝に堪えませんでございます。恐縮です。有難うございました。それでは坐って失礼させて頂きます。

半時間ぐらいで四十年間を語るということは難かしい訳でございますので、新しい事は大方の皆さん御存知のことだと思ひますので、昔の事を中心に置きまして思い出すままに申し上げて見たいと思ひます。

昔は各町(ちょう)を中心にして組合があった様でございます。それを大正九年頃に同盟会と言う「業

- 19 -

和」または「友和」団体が出来まして、そして幾つかの地方団体が県単位に組織してできたものが岩手

県鍼灸按摩マッサージ同盟会、こういう会が成立して居った訳でございます。

昭和十六年夏頃から当時は御存知の通り戦争は益々烈しくなる時機でございましたので、あらゆる職域は戦争に向って協力するような態勢を執って居った訳でございます。

従がしまして、私共三療界もまた業家結束して国家のために職域を通して努力しようではないかと、こういう業者一般の気持ちでございましたし、又当局からも、そのような御指導を頂いた訳でございます。同盟会の大沢昌太郎さん田村仙左衛門さん、姥名三太さん、それから同盟会の内部から、山本近さん、瀬川勝次さん、それに私と此の六人を一応準備委員と言いますか、そう言う様なまあ一、相談機関として十六年の夏頃から県下一丸とする組織作りの準備を進めた訳でございます。

それが、たまたま私共は十六日を持って総会を開いて、そして創立総会と言うものにしようと、こういう事で同盟会を解散して、そして進めて居った訳ですが、十二月八日にあの太平洋戦争が始まりましたが、それには関係しないで、十六日に決めたままで、県教育会館で創立総会を行ないました。

時に十二月十六日でございました。

そうして県下十一地区の業者の代表が集まりまして、華々しく此の会を結成したのでございます。

当時は色々な意味で、御当局より御指導を頂かなければならないというような関係もございまして、初代会長に当時の岩手県衛生課長の竹内守之輔氏にお願い致しました。色々な御指導は係官の川田京蔵さんと、おっしゃる方が私共を御指導して下さいました。半ば強制組合のような組織になって居りましたから、まあ一大方の業者は留まった訳でございます。その後戦争が苛烈化するに従がしまして段々と物資の不足が厳しくなって参った訳でございました。

それで差し当っては、消毒薬とか脱脂綿・白衣といったものが…、治療資材として手に入れることが次第に難しい状況になって来た訳でございまして、此の会を通して配給を頂くという事になった訳でございます。それで其の当時の役員は配給の仕事で大分あわただしく活動した訳でございますが、私等は余り「サキダチ」しませんでした。

- 20 -

エー、それから昭和十八年の年に一応会も整ったと言うことで、今度は会長を当時、盲啞学校の校長でありました柴内先生にお願いする事になった訳でございます。そして当時の私共の「あん摩鍼灸」の免許状というのは「免許監札」となっていた訳です。

それで会としては、免許監札では犬の監札と、おんなじではないか（満場爆笑）、これでは矢張り如何にも具合いが悪い、免許状にして頂こうと言うことを県の方（ほう）にお願いしました処「まあ、それは、良からう」とこう言うことで、免許の書き換えをいたしました。昭和十八年に免許監札から免許状となった訳でございます。

それから、昭和二十年に戦争が終りまして、今度は民主主義が入って来た訳でございます。そうなるのと、吾々の会の会長を、他の方をお願いするということは自主性が無いのではないかと言うことになりまして、改選期では有りませんでしたけれども、昭和二十一年の十一月、確か二十一日だと思いましたが…、総会を開きまして柴内会長先生、任期半ばにして民主主義にのっとりまして、業者の中から会長をだそうと言うことになりまして、一関の吉家松寿さんが第三代の会長に成られた訳でございます。

そうしましてその年、伊豆の伊東で全国の業者大会がございました。それで本県からは吉家さんと宮古から舘下さんという方が代表として、その全国大会に（たしか昭和二十二年の六月だったと思いますが）参りまして…、えーその大会その大会に於いて全国団体を結成する必要があると言う事になりまして、その全国大会を今度は創立総会に切り換えて茲でいわゆる全鍼連の誕生を見た訳でございます。

（注：昭和二十二年六月二〇日、伊豆・伊東温泉・止氷亭に於いて全鍼連が創立された。

会長、小守良勝氏、副会長、小野寺謙治氏、末吉久一氏、理事長・小林勝馬氏を当日決定した)
その年の確か九月二十三日と記憶して居りますが、マッカーサー司令部に対しまして厚生省が、あ
いづれ、その新憲法によりまして色々な旧制度は二十二年末を以って、新憲法による処の法律規則で
なければならぬと言う様な事になって居ったらしいんです。それで厚生省では当時の内務省令、吾々に

- 21 -

関係する取締規則の内務省令を此のまま継続させて頂きたいという事で、当時の総司令部に伺いを立て
た処ダメだ、医療は急がなければならぬんじゃないか…、知識の浅い鍼灸業者、しかも盲人の人達ま
でが、そういう業をやるという事は如何にも不適切だ、駄目だと、こういう事で、これをマッカーサー
施風と言って居りましたが、中止命令が出た訳でございます。

これは大変だという事で、えー此の吾々の団体は勿論のこと、学校関係その他関係する人達全部が起
ち上って存続運動に乗り出した訳でございます。まあ一地方に於いては地方の有力者を頼んで進駐軍と
話し合っ貰う、県衛生課―衛生部を通して、これの働きかけをして頂く、中央は中央で厚生省中心に
して存続運動をする。幸いにして全鍼連が発足した後でございましたので、全国大会を早速開きまして
運動を織烈に行ないました。板倉武博士、石川日出鶴丸博士など、鍼灸に理解ある方でありその道の権
威者であった訳でございましたので、こういう方々からも、えー学問的にも立派なものだと言う事を進
言して頂き、又、理教連なども其の業界を憂いて日夜を通して、内容を説明する文書をまとめて、これ
を総司令部に出すという具合にして、織烈な運動を展開した訳でございます。

総司令部も追い追いに分って参りまして、十二月三日に OK が出た訳でございます。宜しいという事
になった訳でございますが、宜しいという言葉が出る前に、だいたい総司令部の意向が段々分って来た
のであらかじめ準備をして置いた訳ですが、「按営法」…、当時は「按摩鍼灸営業法」と法律になって…、
二一七号の法律が十二月七日に国会を通過して居ります。そうして、これが十二月二十日に公布にな
った訳でございますが、厚生省は現在の時点に於いて、試験を受ける様な就業者が有るだろうという事で、
此の取締規則が有る内に試験を行なおうという事で、岩手県では十二月二十六日・二十七日に、あの一
臨時試験という事で按摩鍼灸の試験を、やって下さいました。

此の時にも洩れた者が有っては大変だ、此の機会を逃しては大変だという事で県下の該当者に洩れな
く伝えるべく指令を出しました。

そうして二十三年の御承知の通り一月一日から此の按営法が施行された訳でございます。

- 22 -

そうしますというと、今度は二つの条件が付いた訳でございます。その一つは教育問題でございまし
て、つまり按摩鍼灸師として、その業を、しようとする者は文部大臣の認定した学校または厚生大臣の
認定した養成施設に於いて按摩師は二年、鍼灸師は四年、但し、大学に入学出来る者にあつては二年、
そして解剖・生理・病理・衛生、按摩鍼灸師になるのに必要な知識と技能を修得したものであつて都道
府県知事の行なう試験に合格した者に都道府県知事は免許を与えるという事になった訳でございます
ので、この周知に努力をいたしました。

それから、もう一つの条件と致しましては、もう少し既存者に教育をしなければならない、こうい
う事になった訳でございます。

それで講習会を開きました。再教育講習会と言うことで二十四・二十五・二十六年と三か年行ないま
した。それで中央で、中央講習会を開いて、そうしてその受講者が地方に帰って伝達講習、その人を中

心に講習会を開く様になった訳でございます。それで、本会からは吉家松寿さんと山本近さんと此のお二人をお願いしまして、中央の講習会に出て頂いて、そして此の方々に地元の会員、業者の皆さんに伝達講習をして頂いた訳でございます。

処が当時台風で山田線が寸断されまして宮古、釜石方面の方々は当時大変ご苦労された訳でしたし、吉家さんは一関の水害で東京に行っている間に家が流されてしまったという様な、誠にお気の毒な事もあった訳でございます。

それも終りまして先ず一安心ということで昭和二十六年の八月、創立十周年の記念式と言いますか慰労会と言いますか、併せて八月の二十一日に身障会館でいたしました。余り長くなるといけませんので端折って申し上げます。

それから二十六年の年に今度は中央に日鍼会が出来ました。それで、本会の中からも追い追いと日鍼会の下部団体を結成する事を、おそらく中央から呼び掛けが有ったと思いますが、段々と逃げる会員の方々が何人か、こう抜けられて、そして、いわゆる現在の県鍼灸師会が誕生した訳でございます。

そして二十六年の年に、会長さんは藤井初太郎さん、第四代目の会長さんに成られました。それから更に二十八年に改選期になりまして、今度は石川会長さんの、お父さんが円作さんと、おっしゃった

- 23 -

のですが、石川円作さんが会長さんに成られました。五代会長という事になります。

そして、今度は少しの間順調に進んで居るのでございますが、その間中央では法律改正の問題が有りまして、そして、矢張りそれに呼応して色々中央に協力いたしました。「と」いうのは療術の問題でございます。療術の問題を中心に法律改正の問題が出された訳でございます。

それから、当時から既に保険問題が起っていました。

それから、三十二年の年にまた改選期で、今度は山本近さんが六代目の会長に成られた訳でございます。処が三十六年の七月に突然、東京の方に移られるという事になった訳でございます。それで、地元の副会長であった私が取敢えず会長代行を、やれと役員会のお話しでございまして、私が次の総会まで会長の代理を務めさせて頂いた訳でございます。三十七年の総会を水沢で行なった訳ですがあ…、そうしました処「イヤー、代理をやったんだから、今度は本番をやったら如何か」と言う様なもので、また会長を言い付けられまして会長に居坐ってしまった訳でございます。

それから、そして居りますと、今度は四十一年の十一月だったと思いますが、盛岡に晴眼者の「あん摩鍼灸」の養成施設が出来るような…、こういう話しになった訳でございます。本当か嘘かと思ひまして、県の方へお尋ね致しました処、そういう話しがあると、これは大変だと、こういう狭い処に業者を養成する機関が出来たんでは吾々が困るという事で、茲に居られる鍼灸師会の三浦先生、それから盲協の大堂先生、こう言う方々と相談を致しまして、つまり関係の団体すべてですね。

あの、本会は許よりのこと鍼灸師会・盲協・盲学校・同窓会など相結束しまして、反対阻止運動に立ち上った訳でございます。それで東京にも行きました、東北ブロックにも頼みましたし、それから県庁に御願ひする事は当然のことです。

設置者の納得を得るべく、設置者とも折衝も致しました。全鍼師会や日盲連にも頼みましたし、それから、三浦先生や大堂先生と一緒に、確か正月の三日でしたか、東京に行って厚生省に乗り込んで御願ひをしたり、中央審議会の委員の人達にも御願ひしたり、いずれも緻密な阻止運動を行ないました。

その結果、設置しようとした方も断念したかに見えた訳でございますが、矢張り経過を監視する必要があるというので、暫く対策委員会を継続いたしました。そして昭和四十五年の三月、大丈夫だろうと

言う事で対策委員会を解散して居ります。

その間に、昭和二十三年、東北連合会の総会を大沢温泉でいたしました。これは恐らく、所謂東鍼連の創立総会ではなかったかと思いますが、この場合には、茲に居られる畠山さんが幹事で行っていただきましたので大変ご苦労なさいました。いずれ、其の様に東北の大会は五年置きに六年目に回って来て、そうしてそれが現在も続いている訳でございます。

それから十周年記念式・二十周年記念式・二十五周年記念式・三十周年の記念式そして今日、四十周年の記念式を迎えた訳でございますが、ええ…、新しい処に就いて有る訳でございますが…、最後に昭和五十三年の八月二十八日・法人が認可になった訳でございます。

此の法人に就きましては、石川理事長さんを中心に、役員全員が非常にご努力をされた訳でございますし、幸いに県御当局は非常に良く御理解下さいまして、そうして御尽力を頂きました。また、鍼灸師会の三浦先生からも側面的な御援助を頂いた、そうしてスムーズに、スムーズと申しますと、あのご尽力されて来た方々に失礼になりますが、お働きの結果、スムーズに県から法人の認可を頂戴いたしまして、八月二十八日から社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会という事で今日（きょう）を迎えた訳でございます。

まだ、ございますけれども本当に端折って申し上げましたが、それでも時間を超過したと思っておりますが、これで今日（きょう）「四十年の歩みの」あらましにさせて頂き度いと思っております。大変失礼いたします。
(満場拍手しばし鳴り止まず)

進行係 — 有難うございました。

(これにて全日程滞りなく終了し閉式の辞となる)

閉式の辞

副理事長 越本 政男

本日は岩手県環境保健部長殿、社会福祉法人岩手県盲人福祉協会理事長殿、日本鍼灸師会岩手県師会長殿の御三方には御多忙中の処にも拘わらず、本会の四十周年の祝賀式典にあたりまして、御来臨を頂きまして斯くも盛大に挙行されました事を心より深く感謝いたします。本当に有難うございました。

之れを持ちまして岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会創立四十周年の祝賀式典の閉式の辞といたします。(満場拍手・午後二時半終了する)

このあと会場を二階の大広間に移し祝宴となり、中村哲夫・鞠子栄・野沢孝一の各氏の名司会のもとに祝宴はいやが上にもかつて無い程盛り上りを見せ会員一同慶こびの美酒に酔った。

本会設立当時の要覧

役員名簿

役名	氏名
会長	竹内 守之輔
副会長	蛭名 三太
同	藤井 初太郎

同 石川 円作
 幹事 瀬川 勝次
 同 大沢 昌太郎
 同 田村 仙左衛門
 同 山本 近
 評議員 駒ヶ峰 茂志
 同 藤原 平太郎
 同 野田 得三
 同 三輪 勝次郎
 同 島山 忠司
 同 八重樫 亮三
 同 遠藤 清助
 同 吉家 松寿
 同 寺村 乙一郎
 同 小野寺 質
 同 中野 寛
 顧問 柴内 魁三
 同 小林 茂雄

- 26 -

相談役 鎌田 兵蔵
 同 石田 雄次郎

注…相談役の二人は岩手県警察署の警察官です。

事務所 岩手県警察署衛生課内

役員は昭和十六年十一月十六日選出された

会員数 設立後の昭和十七年八月一日現在の統計表によると一八二名となっております。

歴代会長名簿

代	会長氏名	所属師会	就任期間（年度）
第1代	竹内 守之助	岩手県衛生課長	昭和16年～17年
第2代	柴内 魁三	盲学校長	昭和18年6月～21年（11月）
第3代	吉川 松寿	一 関	昭和21年11月～25年
第4代	藤井 初太郎	花 巻	昭和26年～27年
第5代	石川 円作	胆 江	昭和28年～31年
第6代	山本 近	盛 岡	昭和32年～36年（7月） 36年度後半は菅野氏会長代行

第7代	菅野 長治	盲学校教諭	昭和37年～48年
第8代	石川 文治	胆 江	昭和49年～現在

注：菅野先生の「四十年の歩み」の講演と資料を検討、併せて各代の会長の就任の期間を記載して見ました

- 27 -

岩手県鍼灸按師会創立四十周年に思う

第六代会長 山本 近

昨年は県鍼灸按師会創立四十周年の盛大な記念式典が行われ、誠におめでとうございます。私、この式典に参列出来なかった事を大変残念に思っております。

本会結成当時の細かい記憶については四十年という遠い霞の奥に消えて、定かではありませんが、昭和十六年の、たしか暮の中旬頃だったと思います、教育会館に於いて結成総会を開いた時の状況を思い出します。私、昭和十三年の春、盛岡に帰って陸軍病院に勤め、新山小路に看板を掲げていた頃、田村仙左エ門さん、大沢昌太郎さん、それに姥名三太さんが、突然拙宅に来られて、何か業界関係の原案を作って呉れと頼まれたのがきっかけで、県内業界一本化の話が、折にふれて進められた事を思い出します。結成大会に至るまで、何十遍となく会合を重ね、県のお役所にお百度参りをしして苦労を重ねた訳ですが、その都度集まった常連は、田村、大沢、姥名の三氏の外、瀬川勝次氏、それに私といった処だったと記憶しています。役所の窓口は県衛生課の小島とか小玉とかいう係長で、この人が又、私達の集りに来た時は、いい事をいって、喜ばせておいて役所を訪ねていくと、上役の一言で話しがコロリと、変わるという有様で散々苦勞させられた事を思い出します。先程のメンバーの中に、菅野先生の名が出ていないのは、当時先生は公務員だったので公（おおやけ）をはばかりて表には立たず蔭の協力者となって下さった為です。

当時郡部にはそれぞれ業団体や盲団体が、幾つかありましたが、比較的広い基盤を持っていたのが、佐藤安友さんを会長に頂たく岩手県鍼灸同盟会（或いは同志会だったか）と言う会でしたので当然、此の会の佐藤会長が統一団体結成のイニシアチブを取り、主役を演じて良い筈ですが、なぜか、らち外（がい）にありました。田村さんなど、佐藤先生の愛弟子でしたのですが、なぜか彼を支持されませんでした。私は、当時長く盛岡を離れていたもので、この間の深い事情はわかりませんので深入りすることは避けませんが、佐藤氏のワンマン振りがどうやら業界統一にはマイナスと評価されたからではなかったかと思えます。この点、田村氏が私情を殺して大勢につかれたのは御立派だったと思います。

- 28 -

そして、県鍼連の初代会長には、県衛生課長の竹内守之輔氏と決まりました。当時は、お役所の権力が絶対だったので、衛生課長を担ぎ出す事が最良の策と考えられたからです。そして、竹内会長が一期で柴内会長となり、三代目が吉家松寿氏、続いて藤井初太郎氏に変わり、更に、石川円作氏「現会長の父君」が三期つとめられ、その後を私が受けて、たしか三期目半で東京に来てしまったという事になります。私の任期最後の年の、三十六年七月八日に創立二十周年記念式典を盛岡駅前の中央バスの二階ホールで行い、その夜鶯宿で盛大な祝賀会を行った事を覚えています。温泉で祝賀会というのは当時の県鍼連としては画期的な事だと、みんなに喜ばれたものです。（この日は暑い日でした）

当時、郡部の実力者といえば花巻の藤井初太郎氏、水沢の阿部秀男氏、宮古の三輪勝次郎氏等が大ボ

スで、そのほか何人かの中ボスがいましたが、これ等の人達は何れも「海千山千」の苦勞人で隠然たる勢力を持っていましたので、これらの人達の協力なしに県鍼連は、立って行かないと言ってもよい程でした。

しかしこれらの人達は既に故人となられ、結成総会に活躍された幹部の人達も、大方他界されましたので、結成当時の生き残りといえば「私一人」という事になりました。当時の思い出を語りあう友を、ことごとく失った私の心境はまさに寂寥（じゃくりょう）の感にたえないものがあります。

しかし、彼等が心血を注いで指導し育ててこられた二代目、三代目の後継者が今、石川現会長をはじめ渋川澄意氏、越本政男氏を中心に県鍼按師会は、今や盤石の基盤の上に置かれ、着実に成長しつつある現状を照覧されて、定めし会心の笑（えみ）をもって満足しておられることと思います。私はいま、この拙い稿を終えるにあたり、今は亡き旧友達の御冥福を心からお祈りすると共に、県鍼按師会の今後の限りない御発展を祈念するものであります。

昭和五七年二月 記

- 29 -

故瀬川勝次氏を偲んで

第七代会長 菅野 長治

瀬川勝次さんと親しくお付き合いするようになったのは、昭和十六年の夏頃から本県三療業界の再編成問題が起こり、県衛生課の助言等もあって、愈々具体的な準備に取り掛からなければならない段階になったので、発起人六人によってその仕事を推進する事になったが、その中に私達二人も入れられたので、それ以来、度々の会議でお世話になった事からである。

瀬川勝次さんは、若くしてマッサージ師を志して上京され、ひたすらこの道の研鑽に励まれ、当時最も難関と目されていた警視庁の免許試験に見事合格して、郷里の盛岡へ帰り、選ばれて盛岡病院のマッサージ師となったが、間もなく岩手病院に転任されて、病院マッサージの草分け時代の先駆者として三十有余年にわたり、専心職務に精励すると共に、多田益三氏と協力して幾多後輩の指導育成に努力されて今日の基礎を築かれたのである。

その傍ら、岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会、同盛岡師会の設立に関しては率先これに尽力し、創立以来死の直前迄、理事又は副会長として総務を担当し、同会運営の主力としてすばらしい功績を残された。又、他方東北病院理学療法協会を始め岩手県身体障害者福祉協会、柴内愛育会、北日本鍼灸按摩マッサージ師会、全国病院理学療法協会等、各種団体の役員及び岩手県あんまマッサージ指圧はりきゅう等地方審議会委員として業界並びに身体障害者の福祉団体に多大の働きをなされ、その功績は誠に甚大である。したがって、全国病院理学療法協会を始め北日本鍼灸按摩マッサージ師会、東北盲人連合会等各方面から表彰又は感謝状を贈られたのも当然の榮譽であらう。

瀬川勝次さんは、頭脳明せきにして文才に富み、事務的手腕に優れ誠に几帳面で責任感が強く、物事を処理するに理非曲直を明らかにしなければ止まない厳しさと、誰にも親切に世話するやさしさと暖かい友情を持っておられた。

昭和四十四年五月十日の高田松原における県鍼連総会の頃から健康がすぐれず、その後、間もなく青山町の済生会病院に入院して療養を続けられたが、病状は悪化の方向に進んでいたが見舞に行くと淡々

- 30 -

として思い出話等されていたが、七月二十二日に見舞った時にはよほど悪かったようで、「愈々臨終だ。

お世話になったな。責任を感じる。」等と言われ、私は胸いっぱい熱いものが込み上げてきて、返す言葉が出なかった。その後、間もなく八月一日に他界され、同四日に内丸教会で葬儀が行なわれ親しい友と永久の別れをしたのであった。

「レポート」

日本東洋医学系・物理療法学会広島大会に参加して

副理事長 越本 政男

昭和二〇年八月六日午前八時十五分、突如…大音響と共に青い閃光が広島市の頭上に走った。瞬時にして二〇万人もの市民の生命（いのち）を奪い去り、江戸時代より浅野家の城下町、水の都として栄えて来た街の姿はもう其処には無かった。世界最初の原爆被災都市広島市には当時の面影を原爆ドームに残すのみで奇跡的な復興というべき発展を遂げ、中国地方の首都としての風格すら感じさせる近代都市の躍動する姿には眼を瞠る（みはる）ものがあつた。

昭和五十六年度第七回の日東医学会・広島大会が、十一月十四・十五日の二日間に亘り広島市で開催され、本会からは私と三枚堂トシさんの二人が出席しました。今回は、岩盲教諭の小島先生も参加されたお蔭で長旅ながら楽しい旅行が出来ました。今回は紙面の都合で詳細な報告は割愛させて頂く事とし、詳細は業界新聞などを読んで頂き度いと思います。でも、折角原爆都市で開催された学会なので矢張り原爆症に関する研究発表ぐらいは御紹介せねばと思い直し、紙面をもう少し頂くことにします。

原爆症と治療法（灸治療）

（社）・広島県鍼灸マッサージ師会

会長 堤 直人

私は、昭和二〇年八月六日の日に広島市の原爆を直接見たり、また、其の原爆症の患者を直接看護した一人であります。私は当時、五日市（注：広島市の西にある隣の町・佐伯郡五日市町・人口六万余・広

- 31 -

島市のベッドタウンとして人口が激増している）の町内会長として、また、救護班長として、五日市役場において避難して来た被災者の中から重病者をつかまえては、役場の看護室に収容して手当を致しました。其の時の状況を少しばかり申し上げますと、被災者全員がコールタールでもかぶった様に全身が真ッ黒であったこと、髪の毛は焼けてチリチリになり男女共殆んど丸坊主の状態であった。

体（からだ）は原爆を受けた方は焼けただけ、また顔や背中、胸の筋肉がぶら下がり、始めは真ッ黒いものを全員がぶら下げて歩いているので、何を下げて歩いているのかと思いましたが、それは筋肉がぶら下って居たのでビックリ致しました。衣類は殆んど焼け落ちて、腰のベルトか又はパンツの白いヒモだけが残り、全裸の状態であり、被災者の大部分は夢遊病者の如くフラフラと歩いている状態です。皆さん考えて見て下さい。全裸の人が七割、一部の衣類を着けた人が三割、殆んど全裸に近い状態の人々が夢遊病者の如くゾロゾロと、二、三時間も歩いて居た光景を想像して下さい。恐らく史上始まって以来の大惨事であり、また珍しい光景であります。

尚、全員が真ッ黒になっている関係上、男女の区別もハッキリしない、また年令も一寸分りにくい状態でした。真に原爆の悲惨さをこれ程強く感じた事はありませんでした。

次に、原爆症の症状を申し上げますと、第一に火傷（やけど）でした。つまり原爆の光りを受けた方は、全部火傷で強いのは、先程申し上げた如く筋肉をぶら下げて歩くような状態です。第二は下痢でした。赤い便が出まして、五日市では赤痢患者と間違えられて、避難病院が満員になる有様でしたが、

発熱でございまして、高い熱が続きました。四十度から四十二度にもなりました。第三は斑点でありまして赤い斑点が全身に出来ました。第四は脳症を起してうわ言を言い出します。最後まで気分がシッカリしていて、話しをしながら死んでいった患者もありましたが、大部分は脳症を起したようです。

以上、原爆症であります。次に、其の当時、私が使用して奇跡的な効果を挙げ、当時の中国新聞にも発表して、素人でも灸が出来るように図解して新聞に出ましたが、非常に皆さんに喜んでもらいました。次は、其の時の灸点の部位を申し上げます。

- 32 -

- 1 やけど痛みを取る灸 … 肩髎（けんりょう）・曲池（きょくち）・足の三里（さんり）
- 2 下痢 … 中脘（ちゅうかん）・天枢（てんすう）（左右二穴）・氣海（きかい）・梁丘（りょうきゅう）（胃経）
- 3 高熱 … 風門（ふうもん）・曲池（きょくち）・太谿（たいけい）・申脈（しんみやく）・三里（さんり）（足）

大体以上の穴を用いましたが、例えば、高熱と斑点が一緒の場合は、高熱の穴に加えて肩髎（けんりょう）や合谷（ごうこく）や太衝（たいしょう）（肝経）を加えて治療したところ、奇跡的に効果が上がり、多くの患者が全快しました。その模様を発表した当時の新聞は、現在広島市民図書館にテープとして今も残っています。思うに、あの世界最初の原子爆弾が落下して、早くも三十六年が終らんとして居ますが、当時の事を思えば、全く身の毛がよだつ思いが致します。決してあの様なことは再び起らない事を願って、この項を終らせて頂きます。

私は、此の発表を聞いて始めて広島に来たという実感を味わうと共に、憤りと感動とに胸が一杯になり、涙が止めどなく流れるのでした。大会はこの他、特別講演六題・一般口演三十三題・シンポジウムでした。尚、十四・十五日の二日間、二ヶ所の会場が使われる不便さはありましたが、広島の方々の行き届いた、お世話振りには頭が下りましたが、参加者が五百を切ったということは、些さか此の学会の前途に不安の影がさしたのではと淋しくなりました。でも、来年は東京で開催されますので、集まり易いのではないかと思います。尚、ホテルは原爆ドームの真前にある「あいおい」でした。尚、特別講演・広島大学医学部教授・松島竜太郎先生の、筋紡錘の働きについての録音テープが下佐盲学校教諭の許にあります。お聞きになりたい方は二〇〇円切手（送料）を添えて下佐先生に御申し込下さい。

「寸評」

気仙師会 佐々木 吉男

五十六年の業界は、まさに目の回る様な有様でした。合意書の解釈のくい違い、日マ会の誕生の問題の事の大きさは分るのですが、一般会員の理解を得られる様な説明は、先づ無かったのではないのでしょうか。

- 33 -

日盲連は、国から相当額の補助金を受けていろいろ活動をしている事は認めますが、私の理解している日盲連の姿に戻って、我々業界人の職場の確保と安定に努力される、それが福祉にも繋がるのではないのでしょうか。

そして、業界はその確保された職場に心技共に有能な人材を送り出す、これがまさに二人三脚の歩みが出来て力強い運動が出来るのではないのでしょうか。

理事在任中には、皆様から御指導を賜りまして誌上をお借りして厚く御礼申し上げます。

五十七年こそ良い年であります様に、全会員の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

「随筆」

昭和十六年（一九四一）とは

副理事長 越本 政男

昭和十六年に本会が誕生した訳ですが、此の十六年という年は一体どんな年だったのか、当時私は小学校の五年の十二歳の少年でしたので、ハイこんな年でした等と知った振りをする訳にもゆきません。でも、此の年は私にとっても生涯忘れ得ぬ年になっていますが、私事を書くためにペンを握ったのではありませんから…。若い会員の皆さんに、昭和十六年にどんな事件が起きたのか、世相は如何だったのか私の本箱にある資料を参考に御紹介して見たいと思います。

昭和十六年の出来事（一・八とは月日）

一・八 東条陸相「戦陣訓」を通達。二・二一 たばこ小売店で貯蓄・報国債券を売り出す。三・五 食糧報国連盟が国民儀礼食の試食会。三・七 国民労務手帳公布（予防拘禁法追加）。四・一 小学校を国民学校と改称。ドレミをハニホと変える。六大都市で米穀配給通帳制実施・外食券制実施（一日二合三勺）。四・十三 日ソ中立条約調印。四・十六 日米交渉正式に開始。五・八 はじめての肉なし日（月二回）。七・一 全国一斉に隣組が常会開く。七・二 南部仏印進駐・関東軍特別演習（満州に七〇万の兵力集中）。七・十八 海外航路休止・第三次近衛内閣成立。七・二十五 在米日本資産凍結令を米が公布。七・二十八 在日米英資産を凍結。八・一 アメリカが対日航空機用ガソリンを禁輸。九・十一 国土防衛総司令部を置く。

- 34 -

九・十二 産業報国会「働け運動」開始。一〇・一五 尾崎秀実ら検挙（ゾルゲ事件）。一〇・十六 大学・専門学校在学年限短縮を決定。一〇・十八 東条内閣の成立。十一・五 北朝鮮沖で定期船「気比丸」が機雷にふれ沈没。十一・十五 兵役法施行令改正（三種合格も召集）。一〇・二十二 国民勤労報国協力令（勤労奉仕の義務化）。十二・八 真珠湾攻撃・対米英宣戦布告。十二・一〇 マレー沖海戦。十二・十二 大東亜戦争との名称決定。十二・十九 言論・出版結社等臨時取締法公布。十二・二十五 香港全島を日本が占領 △たばこ一人一個売り △電球は切れ球と交換 △臣民の道 △ゲートル △防空頭巾 △もんぺ △ABCD 対日包囲陣。

此の出来事の一つ一つを見てゆきますと、次第に国民の生活が圧迫され暗い世相に段々と落ち込んでゆく姿が伺われます。そして、此の四年後には、原爆が落され日本の大部分廃墟と化し、遂には敗戦という大悲劇が待っていたのでした。私の手許に、新潟と兵庫の各師会からの創立四〇年誌が届いて居りますが、此の年には、大方の県が役人の命令で半強制的に組織化され、戦時体制の中で一役を担わされたのでしょう。

巷には、女はもんぺ、男はカーキ色の国民服と戦闘帽という姿しか見られず、次第に物資の不足が目立ち始めていました。然し又、便利さもありました。冠婚葬祭の一切の行事に女は「もんぺ」、男は国民服で参列出来ることです。

貧乏も金持ちも区別が外見的に見られないということです。出征兵士が、毎日の様に送り出されはじめ隣組は送別や見送りに、あわただしい毎日でした。慰問袋や千人針などという言葉は戦後生まれの

方々には、お分りにならないのではないかと思います。

では、此の頃、どんな歌がラジオから放送され流行したのでしょうか、書いて見ましょう。

戦陣訓の歌（徳山たまき）。そうだその意気（霧島昇・松原操・李香蘭）。ああ草枕幾度ぞ（東海林太郎）。ほかに「めんこい小馬」、「大政翼賛の歌」が流行している。

次に、昭和十六年の俳優・監督ベストテンを記して見ます。

俳優（男優）

- 1 佐分利信（松竹） 2 佐野周二（松竹） 3 上原謙（松竹） 4 長谷川一夫（東宝） 5 阪東妻三郎（日活） 6 向田浩吉（松竹） 7 片岡千恵蔵（日活） 8 大日方 伝（東宝） 9 小杉勇 10 中田弘二（日活）

- 35 -

女優

- 1 高峰三枝子（松竹） 2 水戸光子（松竹） 3 田中絹代（松竹） 4 桑野道子（松竹） 5 山田五十鈴（東宝） 6 三浦光子（松竹） 7 高峰秀子（東宝） 8 風見章子（日活） 9 宮城千賀子（日活） 10 木暮美千代（松竹）。

監督

- 1 清水宏（松竹） 2 溝口健二（松竹） 3 吉村公三郎（松竹） 4 マキノ正博 5 島津保次郎（東宝） 6 小津安次郎（松竹） 7 野村浩将（松竹） 8 田坂具隆 9 豊田四郎（東宝） 10 衣笠貞之助（東宝）

作家の永井荷風の昭和十六年の日誌を読んで見ますと、此の年の正月、東京浅草に娯楽を求める群衆で溢れて居たと記してありました。

物価（但し昭和十五年のものですから多少の違いがあると思われます）

◎家具

茶だんす 三〇円。火ばち（瀬戸もの） 七円六八銭。火ばし 二二銭。五徳 三八。桐だんす 十円。鏡台 二五円。針箱 十五円。柱時計 五円。ふとん（三枚セット） 五〇円。座ぶとん 二五円。食卓 一四円七五銭。神棚 四円。国旗 二円六五銭。旗竿 六〇銭。国旗玉 五五銭。

◎食器・料理用具

飯びつ 三円一〇銭。しゃくし 二〇銭。茶碗 一円。汁碗 八〇銭。コップ 九六銭。洋皿 八二銭。鍋（アルミ大・中・小セット） 五円二〇銭。釜（一升だき） 二円八五銭。フライパン 二円五〇銭。おろし金（陶器） 一二銭。買物かご 一円五〇銭。やかん（陶製） 一円四〇銭。菜切包丁 一円一〇銭。

◎その他日用品

洗面器 二円。まな板 一円一〇銭。食器棚 五円八五銭。ぞうり 二〇銭。アイロン 七円。洗濯板 六〇銭。長柄ほうき 二円一〇銭。万年ほうき 三九銭。のこぎり 一円七〇銭。金づち 四〇銭

それでは、私達三療の料金は当時どの位だったのか、これは昭和十七年五月二十四日の日付けで岩手県鍼灸按摩マッサージ報酬規定表（本会設立後に発行された要覧、当時事務を担当された瀬川勝次氏の

書かれたものより)によりますと次の様になっています。

- 36 -

鍼術：自宅治療は、五〇銭以上一円。往療は、七〇銭以上二円。

灸術：鍼術料金と同額です。

マッサージ術：自宅は、五〇銭以上一円六〇銭。往療は、八〇銭以上三円。

按摩術：自宅は、五〇銭以上八〇銭。往療は、七〇銭以上一円。

これに但し書きが付いています。出張治療四km以上に及ぶものは、患家と相談の上定む。傷痍軍人及び応召遺家族に対しては減免する事を得る。貧困者に対しては、無料とす。(但し市町村長・警察官吏または方面委員の証明ある者に限る)

当時、米は一升五〇銭位だったと米屋さんから聞いています。永井荷風の日記によると、昭和十六年の夏は東京でも冷夏に近い気候だったと書いています。岩手県はこの年、若しかしたら冷害だったのではないか…。農村では、大地主の下に小作人があって貧しく、その上に働き手の男達は兵隊や徴用に駆り出され、野良仕事は女達の背にのしかかって行ったのです。都会では軍需産業の好況で猫の手も借りたい程の忙がしさでした。此の年の師走の八日には、日米英開戦となり真珠湾攻撃、続いてマレー沖に英国が誇る東洋艦隊、プリンスオヴ・ウェルズとレパルスの二隻の轟沈。主力に潰滅的打撃を与え、更に英領ホンコン島全土の占領など、国民は戦勝のうちに此の年の年越を送ったのでした。

この程度の説明では、若い会員に御理解頂ける訳はないと思いますが、ほんの一端でも分って頂ければ幸甚です。

(注：参考文献・わが世代「昭和四年生まれ」一九二九年河出書房発行と、「永井荷風日記」第六巻東都書房発行から)

「随筆」

創立四十周年思うがままに

北上・和賀師会 高橋 久

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会創立四十周年といえば、会員の皆様には既に会報で(あゆみ)等ご覧の方も多くお分りなので、此の度は、私が在住している北上・和賀師会四十周年を思うがままにお伝え致します。

昭和十六年十一月十六日県鍼連発足と同時にその方針に基づいて、間もなく師会の発足世話人会が次

- 37 -

の四氏で開かれた。

富田末治氏、八重樫良三氏、阿部周蔵氏それに私。場所は、新穀町梅屋旅館で話し合われた。

昭和十六年十二月二十六日、発会創立総会を開催、新役員を次の通り満場一致により決めた。初代会長に八重樫良三氏、副会長に阿部周蔵氏、庶務会計には私が、それぞれ任命されて会務の運営と発展に第一歩を踏み出したのです。尚、発足当初の会員は七名でした。

しかし、その当初の役員並びに会員は戦前戦後となり当時の事を語り合う方も無く、一抹の淋しさを感じる昨今です。でも、今は十五名の会員に増加し中々の発展ぶりで楽しいです。その半面、四十年の長き間には、物故会員も二十名程に成りました。

歴代会長も、現在は九代目、一番長い会長は三代目の阿部周蔵氏が十六年間で最も長く、次は五代目

の私の八年で、その他の方は四年乃至二年でした。

しかも、会長は勿論の事会員も真面目に、会務の運営については明るく楽しく、努力と遂行に懸命御協力されたのが、感謝の気持で何よりでした。長い四十年の思い出に忘れる事の出来ない楽しい思い出を二つ程書きます。

それは、戦後間もなき頃で、故柴内魁三校長先生や菅野先生、瀬川勝次さん、田村仙左衛門さん等を温泉に招待した時で、師会の故八重樫クラさん、北上の故佐藤末治さんが、和賀のそれぞれ歌の掛合いの中に踊りが飛び出しての朗らかな楽しいひと時が、今でも何処からともなく聞えてくる様な感じが、今なお目頭に浮んで参ります。

昭和十六年十二月八日、ハワイ真珠湾事件がきっかけとなり、大東亜戦争が始まり武者は戦場へ、そして、私達は銃後の守りに戦争は長期化と成り、昭和十八年に水沢におられた男沢政雄氏、江刺市におられた故高橋政雄氏、それに私の三人で海軍軍属を志願、しかし男沢氏と高橋氏は視力が弱すぎたために不合格となり、私だけが採用になり県鍼連の会員や同窓生に励まされ、東京にある海軍技療訓練所に入所、四ヶ月落下傘降下訓練と技療に励み、落下傘降下訓練には、七十五名の中から合格者二十名の中に私も入り外地派遣と決定した。

広島県呉の軍港から航空母艦（リュホウ）に乗船、一路台湾高雄海軍航空隊病院勤務となり、技療に励んだが昭和二十年八月十五日、不幸にも敗戦となり昭和二十一年三月、内地に復員、それ以後は再び

- 38 -

業務や会務に勤めて現在、後記の住所にて頑張っている居ります。

県鍼連は社団法人化され、北上和賀師会も四十年の歴史を保ち、今後共業会発展を切望します。

県内各師会の皆様お元気にて業務にお励み下さい。

おしまい、私の思うがままの乱文をお許しの程をお願い致しまして点筆の走りを止めます。

御機嫌よう御免。

北上市中野町一丁目二の二七

電話 〇一九七-六三一五四八二

郵便番号 〇二四

「随筆」

五年目の治療院

胆江師会 千田 節雄

私が石の上にも三年という言葉を中心に支えにし水沢に治療院を開業して早くも五年目を迎えました。時折開業したての頃の記録を見、よくぞ生き延びて来られたものだとその当時を思い出して見たりします。

昭和五十二年九月に函館から水沢に移り住み、叔父の家の一部を借り十月二十日から仕事を始めることにしました。

最初は、ベッド一台と鍼道具のみという何とも「みすぼらしい」スタートで、生業資金を借りた訳でもなく、持金もこれ又一ヶ月の生活費が有るか無いかの状態で、それ以上の設備を整える事はとても困難な話でした。

十月二十日に開業予定を立てていたのですが、何と私の治療院への第一号の患者は、一日早く十九日に来院したのです。心の準備も出来ていなかったのに、些さかあわてた半面この調子なら軌道に乗るのもそんなに時間はかかるまいという、ほくほくした気持と相俟って落ち着きのない治療をしました。

予定通り二十日から本格的に業を開始しました。出来るだけ多く患者を集めたい為、訪れる患者には、それこそ丁寧すぎる程の時間を掛けて治療をしていました。それなのに中々患者の増加が見えないのです。何となく「痩せ馬の先走り」の感があった様です。実家に頼み込み、資金を借り電気鍼用の器械と

- 39 -

血圧計、ホットパック等を買って求め、何となく治療院らしくなって来ても、思った程患者の増加は見られませんでした。

そんな日には「パチンコ」に行きたくなる誘惑と戦いながら、いつ訪れるか分らぬ患者を持ち続けました。よく先輩諸氏から、「この仕事は食いつぱぐれが無い」と聞かされていましたが、時には持金が底を尽き小銭しか手元に残らない事もありました。そういう時には不思議なもので、色々とお金の入用な事が続くものです。何時ぞや、町内会で何かの寄附を集めに来られた方があり、五百円の寄附を十円玉や五十円玉で支払うのも何となく気がひけ、思い切って一万円でお釣りがありますか、あいにく細かいのが無いので、と手元にある筈のないお札の名前を言って見ました。その方は、一寸困った様にして居ましたが、私の予想通り「お釣りが無いので、幾ら細かくなってもいいから無いですか」との答え、待つてましたとばかりに私は騒ぎ集めた小銭で五百円を支払った事があります。

その方が帰ってから、若し「お釣りがありますよ」と言われた時の事を考え「ゾッと」冷汗が出て来た事を覚えています。今思うと笑い話になりますが、ほんとうに必死の思いだったのです。

三年目にもなると、仕事の方は大分落ち着いて来ましたが、今度は自分の勉強不足に悩まされる様になりました。仕事の合間を見て、基礎医学から勉強をし直し、又、三療に関する本をあれこれと読みあさり色々の治療法を真似て見たりし、其の中から自分なりの治療法を編み出そうと必死になったのです。そして、それは今も尚続いています。

テレビ番組で鍼灸を取り上げたものが増え、書店を覗いて見れば「ツボ」に関する本等、さまざまの形で東洋医学への理解が広がってきています。下手をすると患者の方が私より良く「ツボ」の名称など覚えている事もあるのです。

現在、五年目を迎えた私の治療院は一つの転換期に入っていると思います。増えてくる患者数にどう対処すべきか、今後どの様な物療器機を備えて行ったらいいのか等、目下検討中です。最初的手段として、治療室に有線を引きBGMを流しながら毎日治療に当たっています。

年令三十代にしてその人の仕事が「うまく」いくか失敗に終るか、明暗がはっきりする時だと言われている。

- 40 -

その三十代を目前に控え、失敗を恐れず働き甲斐のある治療院作りをモットーにして、三十代のスタートを切りたいと思っています。僅か五年しか経っていないのに、精神的にはズート長い年月をこの仕事に費やして来た様な疲労感もありますが、終着駅のない三療のルールを、先輩方の御指導を賜りながら走って見たいと思います。

開業してまだ間も無い方も、色々悩み色々工夫を重ね目標に向い、大きく羽ばたいて頂きたいと思っています。

「随筆」

開業を振り返って

今年で開業二十年が過ぎました。それを振り返り、拙ない点筆を取ります。さて、私は、昭和三十五年三月卒業し、福島県白河市の或る業者に修業に行きました。そして、一年間の修業のあと翌三十六年五月故郷に看板をあげたのです。月日は早いもので、それから早二十年、喜びも苦労もありました。

一寸御紹介しますと、私の住んでいる町は、面積は広いものの山が多く、従って人口が少ないのです。業者は私一人だけで、一見、楽な様に感じますが、処が鍼治療というものは、どんなものか分からないのです。大袈裟に申しますと開拓者みたいなものなのです。おまけに運悪く、ある事件があったのです。私の住む住田近辺を、縫針みたいのを使って針を施し、多額の金を巻上げていた「ニセ鍼師」が歩いていたので。しかも、その針の痕が化膿したと云う事で、鍼治療は可成り敬遠された様です。しかし、でも、私は、敬遠され無理解にもめげず一生懸命やりました。その苦労は容易なものではありません。一心は岩をも通す、今日まで来ました。

この二十年の間、気仙師会も出来ました。この二十年間に、多くの色々の患者を手掛けましたが、ここで、拙ない私の臨床の一例を書いておきます。

患者は八十五才になるお婆さんに、往診を頼まれて出掛けて行きました。このお婆さんは宝物で色々

- 41 -

な金下がっているんだそうです。医者の方の言うことには、老衰なので今日か明日とのこと、診ますと大分痩せて意識が殆んどありません。助かるものならとの事、そこで私は、医者が投げたものならばと思い、まず、腹部を診ました。腹大動脈が固くなっていました。それにむけて、二番鍼一寸位の深さで五鍼打ちますと、三十分位で「先生目が明きましたよ」ということです。

この治療は、私が平方辰夫先生から伺ったもので、実際私、運良く実験の積りでやりました。それが見事に成功し、そのお婆さんが五年も長生きしたのです。その腹大動脈は、生命の一部を司っているそうです。

まず、これが体験のほんの一例です。この二十年いろいろありました。書けば長くなります。これで乱筆乱文お許し下さい。又、書きます。

短 歌

花巻師会 千葉 米蔵

早池峰（はやちねの） 宿を訪ねて 旅方（かた）の 岩魚（いわな） 幻 魚（うを） ぞ釣り見ゆ

秋晴れに 健康管理 光浴の 廻（めぐ）る日を追い 散歩にはいで

紅葉の 秋も暮れ逝く 寺町の 道も背に舞う 落葉ふみつつ

俳 句

花巻師会 千葉 米蔵

道草の 咲きし宵待ち 月見草

恵まれし きのこ栗の実 山の秋

- 42 -

三療に 託す人等（ら）の 笑（え）みる秋

母危篤 無情電話の しむる風

年若いし 母闘病の 脈をとる

有難き 思う子の名を 母ごころ

短 歌

北上・和賀師会 藤田 誠一

早春の 夕風寒き 公園に 誰か居るらし ブランコの鳴る

山も川も 春の夕陽の 光（かげ）ならん 北上川に 思ひ画きつ

しゃくなげに 真紅の花が 咲きしとふ 弄（まさぐ）る吾には 無色の大輪

白杖（つえ）を たよりにい行く 吾影も 歩み居るらん 夕陽の道を

栗駒の 山頂に佇（た）てば 雲ならん 真夏の冷気の 波状（はじょう）の去来

悲しみを こらへ居る吾 しきり呼ぶ 九官鳥も 心あるごと

夏祭り 市街（まち）に ま盛る音するも 九官鳥と 吾は留守もる

燈籠流し 北上川面（も） 下（くだ）り居む 遥かの読経 我か家に聞こゆ

異様なる 匂ひくすぶる 火事の跡 残骸ならし 片つくる音

幾棟（むね）も 家焼けたるか 火事跡に 異様な匂ひの 風吹き通る

裏山の 樹々より落ちる 雪ならし 今日も時折り 笹藪が鳴る

ほの温（ぬく）く 身に感ずるは 初日ぞと 手を合わすなり 凍て雪原（はら）に

- 43 -

墓の上の雪を 払ひて妻子等（つまこら）と 初日を背（せな）に 香を捧ぐる

豪雪となりて居るらし 列車の音 この夜半（よわ）特に こもりて聞こゆ

雷鳴の 聞かざる夏は不作ぞと 古老に聞きし さながらの年

七月の 巷（ちまた） に未だ 風鈴の 音は聞こえず 今年も冷夏

この年も また冷夏にて 裏庭の 篋（かけい）の音も 寒く聞ゆる

雲海の中に 居るらし 栗駒の 夏の山頂 冷気身に沁む

とりどりの 色にあるらん 北上の 汀に拾ふ このさざれ石

冷害の 予報の如く 不吉なる 異状低温つづく 水無月

- 44 -

師会だより

盛岡師会

総務部 内田 幸男

例年になく早い寒さの訪れに加え、不況と急速な業者の増加のため仕事の量が減っているという声が多く聞かれる盛岡の状況ですが、各師会の様子は如何でしょうか。早速ながら、我が師会の今年の活動内容をお知らせします。

まず、春の総会で現会長が役職が多く多忙なため、副会長を二名にし、強力に補佐して行く事を決め、次には事業内容を充実させるため、新たに事業部を発足させました。又、料金に付いては二千二百円程度を努力目標とする事に話し合われました。

さらには、初めての試みとして、会の活動を一層盛んにするため、次に記す五班に会員のそれぞれの人が所属し活躍しあう事としました。

①組織強化班、②保険問題研究班、③会報発行班、④行事と予算を検討する班、⑤情報収集班等ですが新しい試みで、やや戸惑いもありましたが懸命に取り組んで来た処です。更に、又、今年当師会が創立されて四十周年を迎えたため、温泉で一泊して記念式典と祝賀会を行なう事も併せて決議されました。

さて、此の式典と祝賀会ですが、十二月五、六の両日にわたり、鶯宿のホテル「加賀助」に県北、宮古、花巻の三隣接師会長さんをお招きし行ないましたが、式典では創立者のお一人で、且つ本会の会長を始め、数々の役職に就かれて今日の師会にまで発展させて下さった菅野先生に感謝状と、細やかな記念品をお贈りし長年の労苦をみんなでねぎらいました。

そして、花巻の師会長さんより祝辞を頂き、其のあと菅野先生に四十周年の歩みと題し講演をして頂きましたが、先輩の方々の同志を思う心と、三療業を守り育てようとした意気込みが、聞いている私達にヒシヒシと伝わって来る感じでした。

祝賀会では、鈴木幸四郎先輩の三味・大鼓に合せた素人離れした歌も聞かれましたし、隣接師会長さんを始め参加者全員にマイクが回り、酒のすすみ具合と共に最高に盛り上がり、かつてない素晴らしい雰

- 45 -

囲気のひと時が過ぎせました。各師会長さんには、この誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に我が師会では、山村千賀子さんが吉田さんと言う方と、又、村上佳子さんが八重樫さんと言う方とそれぞれ芽出度く結婚されました。残念な事としては、金子幸一さん、船越由蔵さん、藤原平太郎

さんの三人が病氣療養中と云うことです。三人の方々の一日も早い全快を祈り終りと致します。

花巻師会

花巻師会長 多田 兼雄

春風、四月総会を開き、会費年額一万六千円に料金二千五百円等、それぞれ増額決定し、来年は当師会創立四十周年に当るので会員一致、記念式を行なうため、その準備に追われている此の頃です。

六月は、老人ホーム花巻荘慰問鍼マッサージの治療を行ない、花巻新聞にその白衣姿が載せられた。八月、レクリエーション・盲協と合同で国民年金保養所センターにあそぶ。三三・五五入浴する者、トランプに興ずる者、マッサージの実地研究する者、思い思いに楽しい夏の日を送った。お蔭様で会員一同皆元気で今年も暮れ様としております。

各師会の皆さん不況と冷害、又、日々風邪などに御注意下さい。

北上和賀師会

師会長 南川 忠

昭和五十六年度の定期総会は四月開催されました。例年ですと、県の総会后五月開催して居りましたが、今年は県と同じく役員改選期ですので、四月湯本温泉和賀旅館で会員十五名中十一名の出席で開催されました。

昭和五十五年度庶務報告、事業報告、会計報告、監査報告等が報告され承認し、議題に入り昭和五十六年の事業計画案並びに会計予算案が読み上げられ、それを決議し役員改選に入りました。

新役員 会長 南川 忠、副会長 八重樫昭則、会計 高橋 久、監査 柏崎謙一郎。

以上、四名で二ヶ年の任期です。

- 46 -

次に、事業計画の一つであります老人ホーム慰問マッサージ。今年は、北上市養護老人ホームが四月オープンし、三施設となり会員も高令者や病休もあり十一名の参加でしたので、二ヶ所を慰問しました。

湯本温泉の高寿園には、私が週二回（午前中）だけ囑託として勤めておりますので、北上市の北星荘特別養護老人ホーム恵愛園に行きました。慰問マッサージの行き帰りは、湯田町の福祉バスを利用致しました。

県の四十周年で当師会では、八重樫昭則氏が表彰されました。一昨年、怪我とリウマチで入院致しました高橋辰夫さんが、六月に退院して現在も通院中ですが、除々に良くなって来年復帰出来そうですと喜んでいるようです。退院おめでとう、一日も早く復帰できるよう祈っております。

名簿もれ、白藤トク子 ○一九七-六四-六二三三 北上市新穀町一丁目六の一六

右記の会員を、私の不注意で記載もれになって居りましたのでお詫び致します。宜しくお願い致します。

お悔み申し上げます。八重樫昭則さんの妻幸子さんが十月九日、愛娘のユカリちゃんを迎へに行つて来ますと家を出たきり帰らぬ人となった。未だに信じられない気持です。人間の命ってほんとうに儂いものと思います。私が知らされて病院に駆けつけた時にはもう冷たく、安らかに眠って居られました。心から御冥福をお祈り致します。

会員の皆様へ

北上和賀師会 八重樫 昭則

去る十月九日、家内の突然の事故死により会員の皆様から、沢山の御悔みやら香典・弔電等を頂きま

して有難うございました。又、多くの方々が此のお忙しい中にも拘わらず遠い所をわざわざ弔間に来て下さった事に対しこれも併せて厚く感謝御礼申し上げます。

何しろ急な事でしたので、いろいろとごった返してわざわざ来て下さった方には、多大なるご迷惑をお掛けしました事を深くお詫び申し上げます。現在の私の状態は、朝から晩まで唯々夢中での事です。何も考へる余裕はありません。

- 47 -

一日一日の生活の総てが、不自由ながらも何事も無く、事故のない様に過せばとの一心です。恥かしい事ですが、大部分家内にまかせっぱなしでしたので一から十まで、手探り足探りです。今後共皆様からの御指導御支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に、幸子が生前皆様に可愛がられお世話になりました事に際しまして、家内に成り代り厚く御礼申し上げます。又、私にも多くの会員の皆様から心温まる励ましの電話や御手紙等頂きまして、これが何にも替え難い程の心強さを感じます。有難うございました。

会員の皆様の一人一人に御礼状を差上げたいのですが失礼ながら、この会報誌上をお借りしましてお礼状に代えさせて頂きます。乱文にて失礼させて頂きます。

昭和五十六年十二月二日 記

胆江師会

会長 菊地 安夫

当師会より一言御挨拶申し上げます。

今年も残り少なくなって参りました。各師会の皆様には如何にお過しでしょうか、胆江師会の会員一同、大過なく理療の道に励んで居ります。これも業会の方々の暖かい御支援の賜と深く感謝しております。

例年の通り例の如くなり、例年通り終りつつあり、全く健全なる師会です。

奉仕 老人慰問奉仕治療 寿荘・立成苑・改造新築のため、本年度はお休み致しました。

最後に各師会の皆々様の御健勝を祈り、筆を止めます。

昭和五十六年十二月十五日 記

一関師会

一関師会長 北峰 忠志

去年は、未曾有の大冷害そして今年も五月、六月と低温、八月、風水害で農家は二年続きの打撃を受けている。更に財政再建とかで町も渋い顔である。しかし、保険が効く病院等だけはにぎわいを見せている。こんな状態が何時までも許されようか。全鍼・日鍼・日盲の三会派は一日も早く、愚かな小異を

- 48 -

捨て賢明な道に着くべきである。業界のため患者のため、指導者は最大限尽力して欲しい。

次に、我が師会の事業状況等を申し上げたい。

一、一関師会活動状況

一月十一日、昭和五十六年度新年会が、二十二名が参加して、簡易保険保養センターで開かれた。今年、当師会創立六十五周年記念や国際障害者記念事業を四月に予定しているので、此の席で役員改選が行われたが全員留任になった。このあと、祝賀会では、千鳥のもの真似賞や歌の「のど競べ」で、

それぞれ三位まで賞を受けた。

四月一日伊藤庸一氏入会、氏は宮城盲を卒業し花泉に開業。四月二十六日、市内蘭梅荘（らんばい）に於いて市長等来賓を迎えて、一関師会創立六十五周年記念と国際障害者年を記念する式典を行った。

この日、会に尽くされた四名に表彰状と記念品が、又、前名誉顧問の熊谷新治氏、点字図書寄贈団体の一関中央ライオンズクラブ、それに点訳奉仕者四名等、六名に感謝状と記念品を贈り深く感謝申し上げた。このあと、市長並びに福祉事務所長、図書館長等よりお祝いの言葉を頂き、更に衆議院議員の志賀節氏、県理事長石川文治氏、胆江師会長菊地安夫氏、県盲協理事長大堂他人氏の皆様より励ましとお祝いの祝電を頂き誠に厳粛であった。

このあと、来賓の方々には鉛筆で参加してもらい、五十音書き点字競技会を行ない、点字書きの力量を見て頂いた。表彰を受けた者は次の四名である。岩淵千三郎氏、遊佐隆氏、横山千代子氏、菅原すま子氏。盲人作品展では「籠・わらじ・こけし・尺八・帽子・靴下」。その他、手工品が展示された。

又、この席で、市当局に盲人の安全歩行、駅等に誘導チャイムを設置、バスの行先案内の放送等を要望した。

六月一日、奉仕者によって作られた「声の広報」と声の「岩手日日新聞」が提供される事になった。

七月五日、老人ホーム東山荘に通算八回目の慰問治療を行い、午後から花巻のバラ園に足をのばし雨上りの大輪のバラを観賞した。

七月二十六日、会員有志が参加して気仙沼の大島に海水浴を行なった。

八月二十三日、前夜からの大雨に強風が加わり、市内北上川沿いは（アイオン台風）以来の洪水となった。市内中央を流れる磐井川も旧堤防を超える増水ぶりであったが、幸い会員には直接の被害は無かった。

- 49 -

九月六日、午前中は野球で汗を流し、そのあとは席を料理屋に移し、三十名が参加して反省会を兼ねた会合を開いた。そして、業会とりわけ進まない保険問題等質議したが会員の不満は大であった。

二、一関師会の歩み

一関師会は、大正の初期から会結成の機運が出て、大正六年に西磐井鍼灸マッサージ師会として発会し、今年で六十五周年を迎える事になりました。この基礎を創られました、今は亡き諸先輩に対し心から敬意とお礼等を申し上げる次第であります。

初代会長は、失明軍人であった高田村之助氏で、このあと佐々木万エ門氏、鈴木次郎氏、吉家松寿氏、伊藤安助氏、北峰胤雄氏がそれぞれ会長として会を担い、現在は北峰忠志氏がこれを受け継ぎ、その重責に当たっている次第であります。現在は、会員三十名という大世帯の会になりました。

しかし、この六十五年の中にはマッカーサー旋風や全鍼連、日鍼会の分派等苦勞された事もあったのであります。今は、鍼麻酔ブームに支えられ業界も華やかになって参りましたものの、国民と共に待望している保険取扱いが、未だに厚い壁を破れないでいるのが現状であります。会発展と共に、業界の進展を乞い願うものであります。

三、保険取扱いへの提言

業界三団体は、再編成を白紙撤回し初心に帰ってはどうかであろう。互いに窓口を奪い合うより、日保連を活用すべきである。日保連こそ全資格者が支え合った唯一の会であり窓口である。必要であれば法人化も急ぐべきである。

又、例え保険が効く様になっても、同意書が簡素化しなければ思う程役には立たない。やはり二、三の症候に限ってでも同意書が簡素化される様その任にある者は研究しなければならない。

例えば（頸腕症候群、坐骨神経症候群、運動器疾患、自律神経失調症）等を簡素化の対象にして欲しい。

以上の提言と要望を、中央の諸先生に強く強く申し上げる次第であります。三十名の師会員、伏してお願い申し上げます。

昭和五十六年十二月三十日 記

- 50 -

気仙師会

気仙師会長 鈴木 源十郎

今年も連続の冷害に見舞われ、農村漁村共に不景気の風にさらされ、師走を前に心淋しさを感じます。不景気は業績にも現われ勝ちで、来春の繁栄にまさに夢と希望を持ちたい気持です。

私は、理事就任して一年、ふり返って見て又これを思う時、法人になった今日、理事会が主体を持つ運営であれば、今まで以上に声なき声の一般会員の考へを把握し、これからの運営に当たりたいと思う今日この頃です。何とぞ、先輩の皆様の暖かい御指導を心よりお願い致します。

次に、会員の近況ですが良いこと悪いこと色々ありました。まず、遠田広君が高血圧で十一月初めに倒れ、みんな心配させましたが、御家族の懸命な看護の結果、手術に耐えられるまでに快復され、手術を受けました。その結果、順調な快復を見せ、もう安心出来る状態になりました。又、菊池利美君夫人栄子さんが退院して結果良好。次に、ハッピーなニュースは、会員の小松正志君がサト子さんと言う晴眼者と晴れて結婚にゴールイン、営業の繁栄と共に幸せ一杯の毎日です。

事業としては、例年通りのことですが、本当に今年は公私共に忙しく、思う様に活動も出来ませんでした。新年度こそは、しっかりと地に着いた活動を続けるべく心掛けて居ります。不景気の折、益々健康に注意、共に業会の発展に努力致します。各師会の繁栄と会員諸氏の健康を祈ります。

昭和五十六年十二月 記

釜石師会

佐々木 至

鉄と魚を主産業として栄えて来た釜石は、新日鉄の生産調整による合理化、水産業の不振それに相次ぐ農業の不作が相まって、不況のカラッ風が吹き荒れているのです。

此の影響は商業にも、モロに影響を及ぼして商店街の人通りはまばらになり、売上げは激減しているのです。人口の減少に伴って、市議会議員の定数も三六人から引き減らす事が決まりました。

- 51 -

議会内では、それぞれの立場から景気回復と活気を取戻そうと、多種多様の提案が打ち出され論議されて居り、市民の関心と不安を呼んでいる。

そんな厳しい情勢の中にあって、釜石師会の皆さんは機敏に対応して、むしろ前年を上回る業績を挙げて居ります。

五七年一月十五日には、川崎旅館で盛大に新年会を開き、心いく迄語り飲み食べました。この日、地元釜鉄ラグビー部は、四年連続日本一を賭けて重量フォワードを誇る明治大学と対戦し、釜鉄は白熱した大熱戦の末、見事、史上初の四連覇を成し遂げました。釜石市民の喜びは勿論、しばらくマスコミも釜石ラグビー部の報道で持ち切りとなったのです。

優勝パレードは市内の目抜き通りで行なわれ、大勢の熱狂的な市民の出迎えとサイン攻めで、予定時間の倍以上もかかる盛況振りでした。

釜石師会の昭和五六年は、総会を六月六日に、昨年に引続き釜石を離れ、花巻の台温泉・「さなぶり荘」で行なわれ、総会は予定議案を原案通り可決、閉会となり、その後は、ゆったりと温泉につかり自慢の料理に舌鼓を打ちながら、大いに飲んだ楽しい夜でした。

何時もの老人奉仕は、五の橋より東側の会員の皆さんが、九月二十六日に鶴住居（うのすまい）の老人ホーム「五葉寮」で行ない、西側の会員は、三月の中旬に大畑の特別養護老人ホーム「清風園」に行く予定になって居ります。

釜石師会の会員の状況は、四月に相ノ山啓子さんが、新築成った花巻の自宅に入居され、釜石師会から花巻師会に転籍されました。長い間入院治療を続けて居られた、岩間副会長の奥さんが、元気に家庭復帰され、私の妻は療養の身となりました。

当師会では、学ぶ姿勢が旺盛で、今年も日東医「広島大会」に越本会長、三枚堂さんが参加されたのを始め、多くの場に出られ研鑽を積まれる会員が多くなって居ります。

十一月一日に、市民文化会館で行なわれた国際障害者年釜石市記念集会で、福祉功労賞九名の中に越本会長が選ばれ、自立更生賞十四名の中に岩間副会長と佐々木信良さんが選ばれ、それぞれ表彰されました。

最後に、県鍼灸師会の皆さん、昭和五十七年五月八日（土曜日）に、浪板観光ホテルで行なわれる県鍼灸師会の総会に、多数お出で下さる様お願い致します。海の幸、風光明媚な三陸の海がきっと皆さんを満足させて呉れますよ。

- 52 -

県北師会

滝沢 昭蔵

昨年は、筆者の心得違いから期日に乗りおくれ、結局当会としては御無沙汰してしまい、我が会員には甚だ申し訳けなく思う次第であるが、さて、昨年この方、じっと当会の状況を眺めて見るに、まず第一に目に付くことは、昨年六月、山本孝一氏が土地買入と同時に新築されたことである。唯たんに家を持ったということでは、さして驚くこともないのだが、山本氏は当地に開業して僅か、三年にして新築されたのだから、驚異的躍進ぶりと言わねばならないと思う。

次に、準会員としてではあるが、内沢敏彦氏が、やはり昨年六月から金田一に開業し、しかも職人を二人も置いて忙しく活躍していることである。

それから、老人ホームの奉仕治療は、今年で三回目になるが、今年のご要望が多くて、紅梅荘・白梅荘・市井（いちい）荘の三ヶ所に慰問に行ったことになる。もっとも、それに先掛けて、敬老週間の一事業として一般の人にも奉仕治療を行ったが、お年寄り達から有難いもんだと言われると、その日の疲れも忘れてしまった事を思い出す。

新年に、幸多かれん事を祈って雑文を閉じます。いやが上にも、年の暮れをひしひしと肌に感ずる朝である。

ヤマキンだより

◎新製品 サーマフォア（米国製品）

（特長）サーモフォアは、空気中の水分を凝固させて水滴を作り、水を使用せずに湿性ホットパック

として御使用いただける、全く新しい温熱治療器です。
 一〇〇V コンセントに差込んでいただくだけです、応診に回診に最適商品です。
 (寸法巾六〇〇×奥行三〇〇mm)
 一台定価 ¥三九、〇〇〇 (綿カバー二枚付)

- 53 -

全国施術者数と岩手県の施術者数
 昭和 55 年現在 全鍼師会 情報委員会調査

	按摩・マッサージ・指圧師			鍼 師			灸 師		
	晴眼	盲人	総数	晴眼	盲人	総数	晴眼	盲人	総数
全国	42,380	37,679 (47.1%)	80,059	28,154	18,744 (40.0%)	46,898	27,992	17,541 (38.5%)	45,533
岩手	260	204 (44.0%)	464	115	86 (42.8%)	201	114	83 (42.1%)	197

◎全国では、按摩等では、昨年比では64人減、岩手では16人減（晴眼12、盲人4）
 鍼では、昨年比全国で557人の増、岩手では11人の減（晴眼5、盲人6）
 灸では、昨年比全国で557人の増、岩手では11人の減（晴眼5、盲人6）

- 54 -

事業部だより

昨年の秋の講習会に、お招きした講師の鈴木達司先生から、本会に先生の著書である「理療臨床学」臨床各講（全）が寄贈されました。

ご購入をお奨めします。発行所は医道の日本社で定価は三、六〇〇円です。送料は不明
 点字版は出て居りません。

編集後記

本会創立四〇周年記念式典の録音の全部を文字に換え、誌上に再現して見ました。果たして、どれだけ当日の雰囲気伝えることが出来たのでしょうか。

当日欠席された会員の方々に、些かでも慶びを味わって頂けたら幸甚です。

今回も又、沢山の御投稿を頂き御蔭様で創立四〇周年記念特集号に相応（ふさわ）しい会報第十四号となりました。有難うございました。

◎本会、初代竹内会長が、昭和十九年に岩手県庁から横浜市役所へ転出されたあとの消息を促えられず、歴代会長長の筆頭に、お写真を掲載できませんでした。甚だ残念です。

◎点字原稿の墨字訳を多田兼雄氏御夫妻がやって下さいました。ご苦勞様でした。有難うございました。最後に、既に故人となられた諸先輩の方々の御冥福を心から御祈り申し上げます。

昭和五七年二月十三日

編集責任者

事業部長 越本 政男

社団法人 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

昭和五六年度 会報第十四号

事務所 〒〇二〇-〇一 盛岡市高松四丁目一八番三二号 (渋川澄意方)

電話 (〇一九六) 六一-四五二一番

事務局 〒〇二〇 盛岡市北山一丁目一〇番一号

(県立盲学校内) 下佐 征昭

発行人 理事長 石川 文治

〒〇二三 水沢市中町一六七

電話 (〇一九七二) 三一五七二二番

編集責任者 副理事長(事業部長) 越本 政男

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目一番二六号

電話 (〇一九三) 二三-六四三九番

昭和五七年三月十五日発行

印刷 青木印刷

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目四番二五号

電話 (〇一九三) 二三-六六八七番

鍼・灸・用具専門店

(取 扱 品 目)

鍼及び鍼灸用具	消毒装置	電気治療器	温熱装置
	治療諸設備	物療器具	

- ◎ ステンレス鍼（50本入）普通鍼 ¥2,250 1本 45円
軟質 ¥2,250 1本 45円
- ◎ 銀 鍼 昨年 の 1 2 月 以 前 取 扱 っ て 居 っ た 品 目
- ◎ 円皮針B（円皮針 + ばんそうこう）
業務用価格（10シール以上） 1シール ¥500円
- ◎ 円皮針エース（円皮針 + 磁気 + ばんそうこう）
（旧商品名特殊円皮針）
業務用価格（10シール以上） 1シール ¥750円 定価 ¥1,300円
- ◎ せんねん灸 伊吹一お灸のイメージを一新、手軽さで好評 80点入 1,000円
（業務用価格が有ります） 170点入 2,000円
- | | |
|-------------------------|--------------|
| 近江一画期的なにんに灸、肌もよごさずワンタッチ | 70点入 1,000円 |
| | 150点入 2,000円 |
| 八景一現代的で匂いもさわやかなワンタッチ | 70点入 1,000円 |
| | 150点入 2,000円 |
| 竹生島一現代に開花する最も新しいソフトタイプ | 70点入 1,000円 |
| | 150点入 2,000円 |
- ◆ 新製品紹介 【サーモフォア】 バトル・クリーク社（米国）製品
（特長）アンポーとは温湿治療のことですが、サーモフォアが発明されるまでは、
タオルに熱湯をかけてこれを絞って患部に巻きつけておりました。
サーモフォアは非常に強い温湿をもつアンポー器で空気中の水分をカバーに吸収させる
事により温湿効果を発揮させ今までのアンポー器より何倍も効果的な温湿治療器です。
一台 定価 39,800円（綿カバー2枚付）

有限会社 ヤマキン

〒034 青森県十和田市大字相坂字相坂 90

電話 01762 (3) 9138 ・ (3) 0813

郵便振替（盛岡）597 番